

# PhRMA



## 「いま医療と医薬品に期待すること： 3000人の意識調査」

PhRMA在日執行委員会

委員長 梅田一郎

2011年9月6日(火)



- **調査概要**
- **主な調査結果**
- **薬に対する意識—処方薬の重要性について**
- **ドラッグラグの解消について**
- **新薬の治験参加について**
- **革新的な医療について**
- **まとめ**

# 調査概要

## <調査背景・目的>

- 現在の日本の医療や医薬品に関して、一般生活者がどのような意識を持っているのか、具体的には、(1) ドラッグラグ (2) 治験 (3) 革新的な医療についてどのような意識、関心、希望をもっているのかを調査する。

## <調査設計>

- 調査手法： インターネット定量調査（調査実施日：2011年7月12日～14日）
- 調査地域： 全国
- 対象条件/サンプル数： 全体 3,267名（男性：1,586名、女性：1,681名）

	35-39歳	40-44歳	45-49歳	50-54歳	55-59歳	60-64歳	65歳以上
男性	182	171	156	151	156	215	555
女性	172	167	158	146	166	203	669
合計	354	338	314	297	322	418	1,224

- 調査の誤差：±0.34-1.71%（全体 3,267サンプルが回答した質問の場合）
- 調査委託会社：株式会社アンテリオ
- インターネット調査実施会社：株式会社インテージ

\* 対象条件/サンプル数について：平成17年国勢調査を基にインテージ独自の推計方法により、平成22年のバージョンに換算した人口構成比データを母集団として配信・回収を行なった。割付は「性別(2区分)×年齢(7区分)×地域(10区分)」で実施。\*地域詳細は対象者属性を参照

# 主な調査結果



- 回答者の8割以上が、処方薬を重要視
- 新薬開発の実態(長い開発期間、高い開発費用、低い成功確率)の認知は低い
- 回答者の9割がドラッグラグに関心を持ち、その解消が重要と考えている
- 回答者の半数が「治験」について知っているが、実際に参加経験のある人は全体の5%以下
- 治験に参加したことのない回答者の半数は、参加に関心・興味がある
- 回答者の4割は、多少費用が高くても世界最新の医薬品を使用したい
- 一人当たりの医療費を先進諸国平均レベルまで増やすべき、と4割が回答

# 「薬」に対する意識

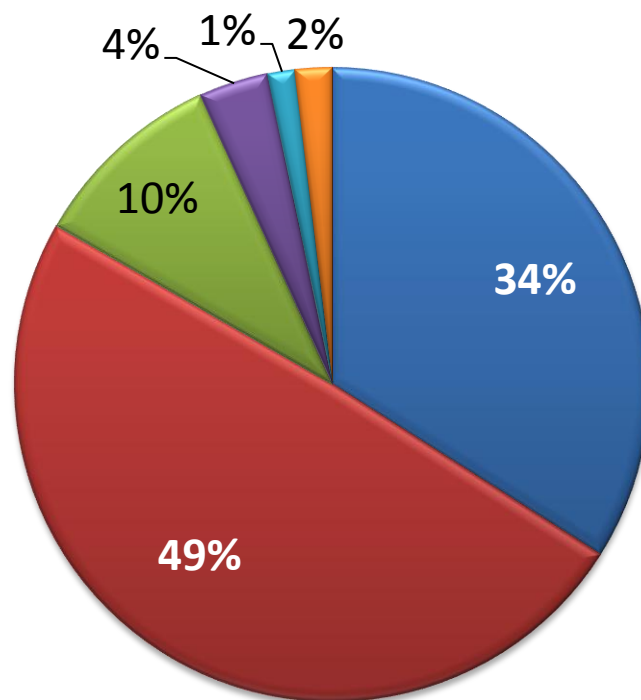
## —処方薬の重要性—

# 8割以上が処方薬を重要視



- 医師から処方される薬について、「非常に重要である」、「やや重要である」と答えた人は83%。

■ 非常に重要 ■ やや重要 ■ どちらともいえない ■ あまり重要ではない ■ まったく重要ではない ■ わからない



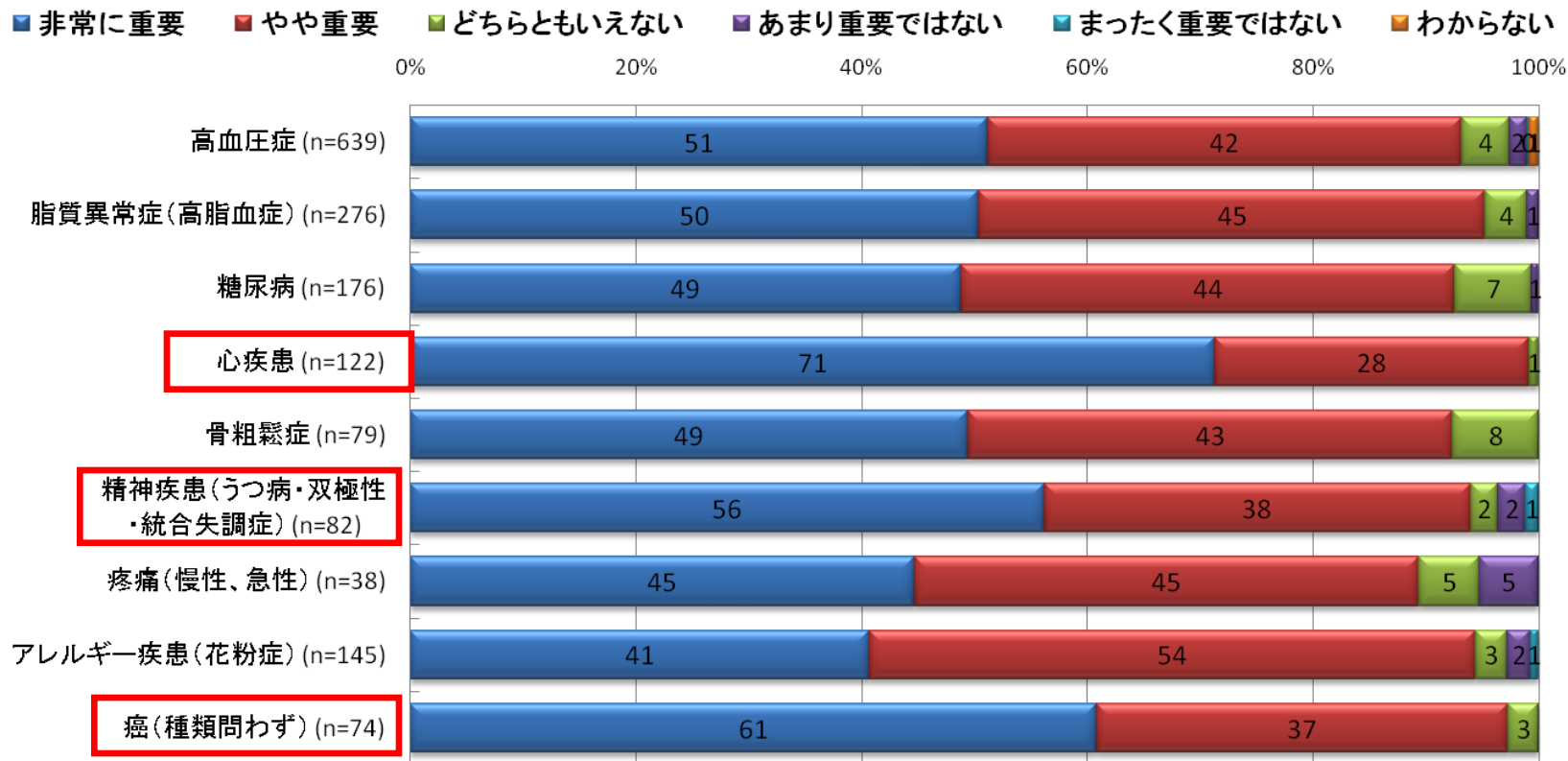
Q4. あなたにとって医師から処方される薬はどの程度重要ですか。下記の中から最も近いものを1つだけお知らせください。  
[全体 n=3,267]

# 心疾患、がん、精神疾患患者にとって、 処方薬は「非常に重要」



P/RMA

- 「現在、処方薬を使用・服用中」と答えた人のうち疾患別に薬への意識をみると、心疾患、がん、精神疾患患者が、医師からの処方薬を「非常に重要である」と答えている割合が高い。

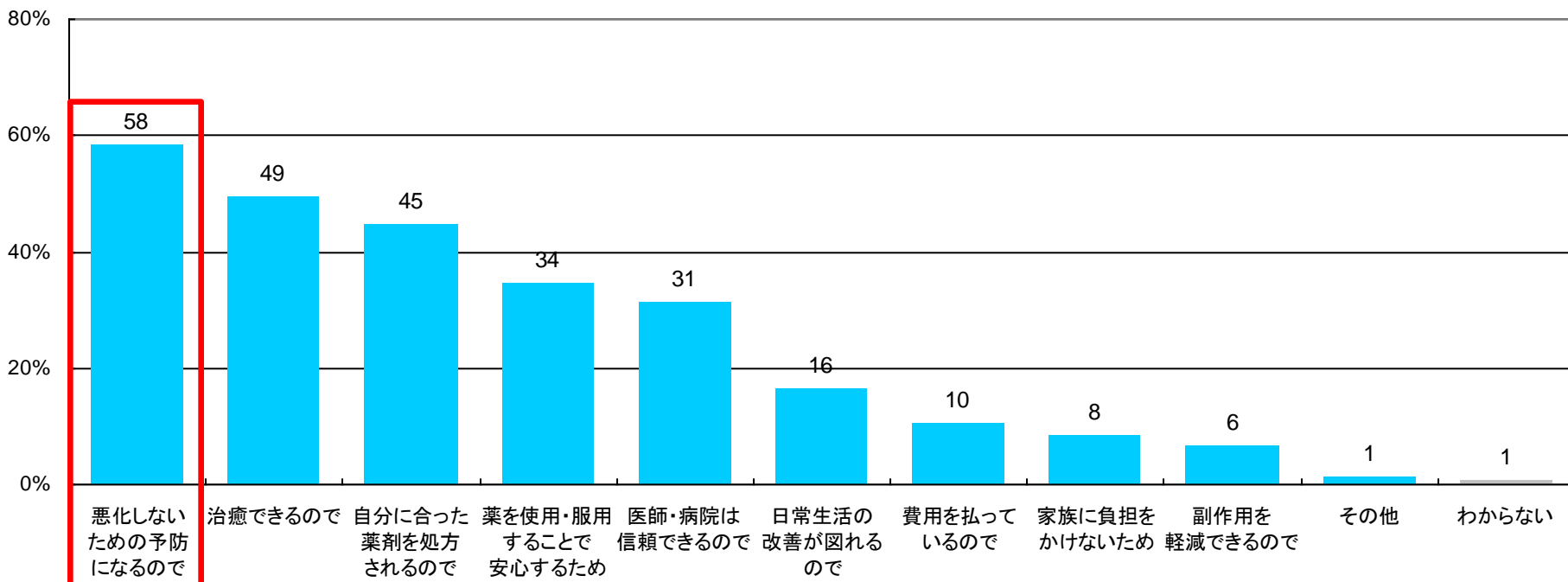


Q4. あなたにとって医師から処方される薬はどの程度重要ですか。下記の中から最も近いものを1つだけお知らせください。  
[30サンプル以上の9疾患の患者積み上げベース、複数回答有]

# 処方薬が重要な大きな理由は 「悪化しないための予防」



- 処方薬が「非常に重要」および「やや重要である」と答えた理由の6割が「悪化予防のため」

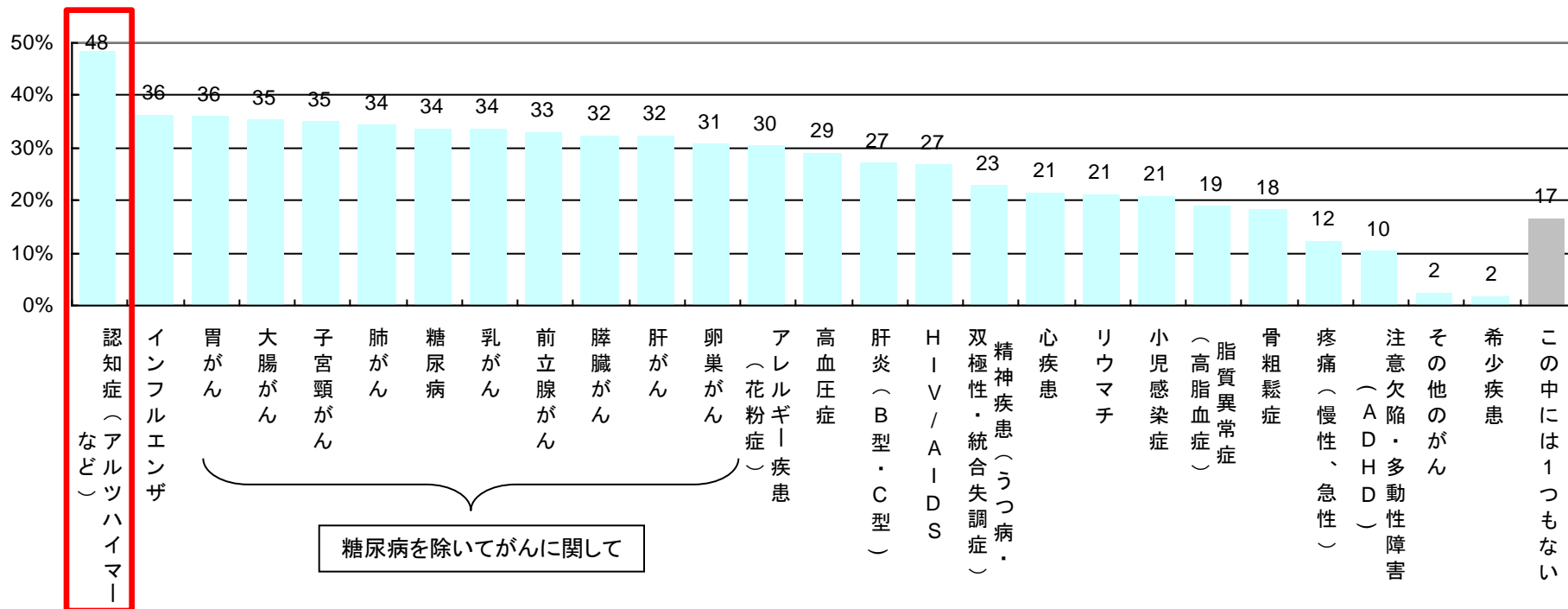


Q5. 医師から処方される薬が、あなたにとって重要または有益だと思うのはなぜでしょうか。下記の中からあてはまるものをいくつかもお知らせください。<複数回答有> 対象 n=2,721 [Q4:非常に重要/ やや重要選択対象者]



# 新薬が最も求められている疾患は 認知症、インフルエンザワクチン、癌、糖尿病

- 83%の回答者が、より安全でより効果的な新薬の開発が必要と複数回答している。新薬が必要とする疾患は、「認知症（アルツハイマーなど）」が最も多く、次いで「インフルエンザ」、「糖尿病」および「様々ながん種」であった。



Q7. 「より安全」で「より効果的」な新しい医薬品（ワクチン含む）が必要だと思われる疾患に関して、下記の中からあてはまるものをいくつかもお知らせください。【複数回答有】[全体 n=3,267]

# 新薬開発実態はあまり理解されていない

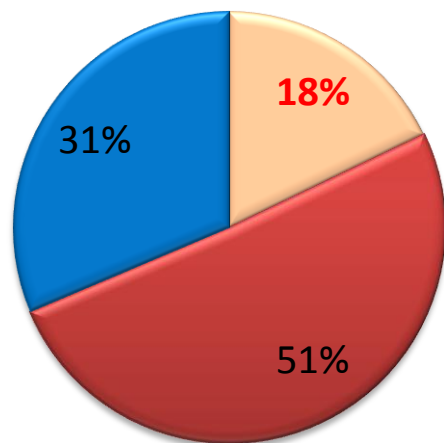


PRMA

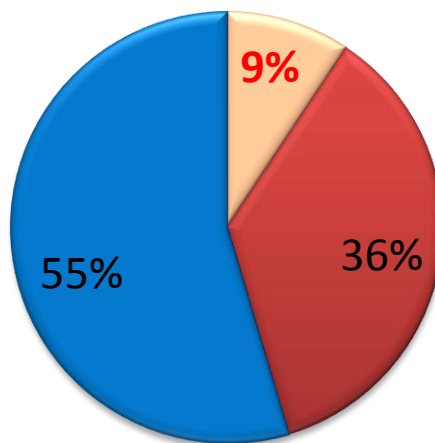
- 新薬の研究開発に関して「開発に要する期間」を「よく知っている」と答えた人は、20%弱。「高い開発費用」、「低い成功確率」を「よく知っている」との回答は10%を下回る。

■ よく知っている ■ 聞いたことはあるがよく知らない ■ 知らない

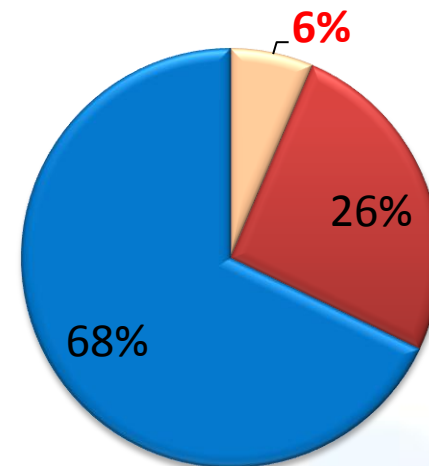
(1) 新しい医薬品を開発するために、平均10年から12年の時間を要する



(2) 新しい医薬品を開発するために、平均約1,000億円の費用が必要である



(3) 新しい医薬品を研究し、開発するまでの過程で、約2万種類の候補物質のうち、新しい医薬品として国から承認される物質は、1つという確率である



Q8. 新しい医薬品の開発/研究に関するこれらの事柄についてご存知ですか。[全体 n=3,267]



# ドラッグラグについて

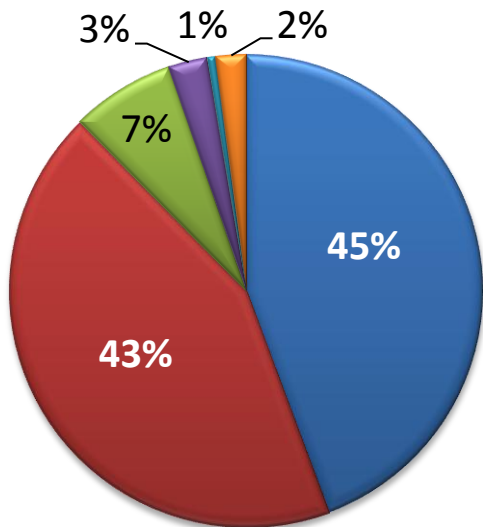
# 9割がドラッグラグに関心を持ち、その解消が重要と考えている



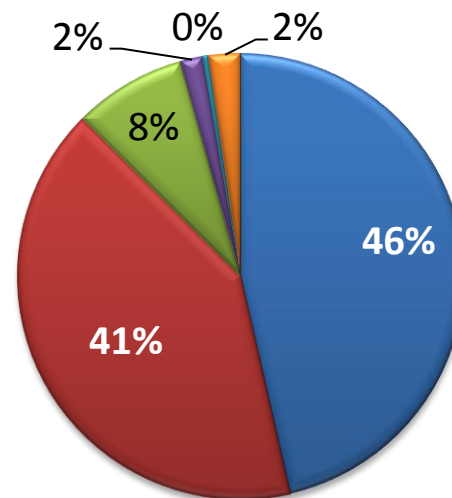
- 88%の人がドラッグラグに関心を持っており、87%がドラッグラグの解消が重要だと思っている。年齢が高くなるにつれ「気になる」、「重要である」と回答する傾向。

【ドラッグラグとは】海外で既に使用されている新しくより優れた医薬品が日本では使用できず、日本の患者さんが使えるようになるまでに、数年間長く時間を要することがあります。

■ 非常に気になる   ■ やや気になる   ■ どちらでもない  
 ■ あまり気にならない   ■ まったく気にならない   ■ わからない



■ 非常に重要   ■ やや重要   ■ どちらともいえない  
 ■ あまり重要ではない   ■ まったく重要ではない   ■ わからない



全体 n=3,267

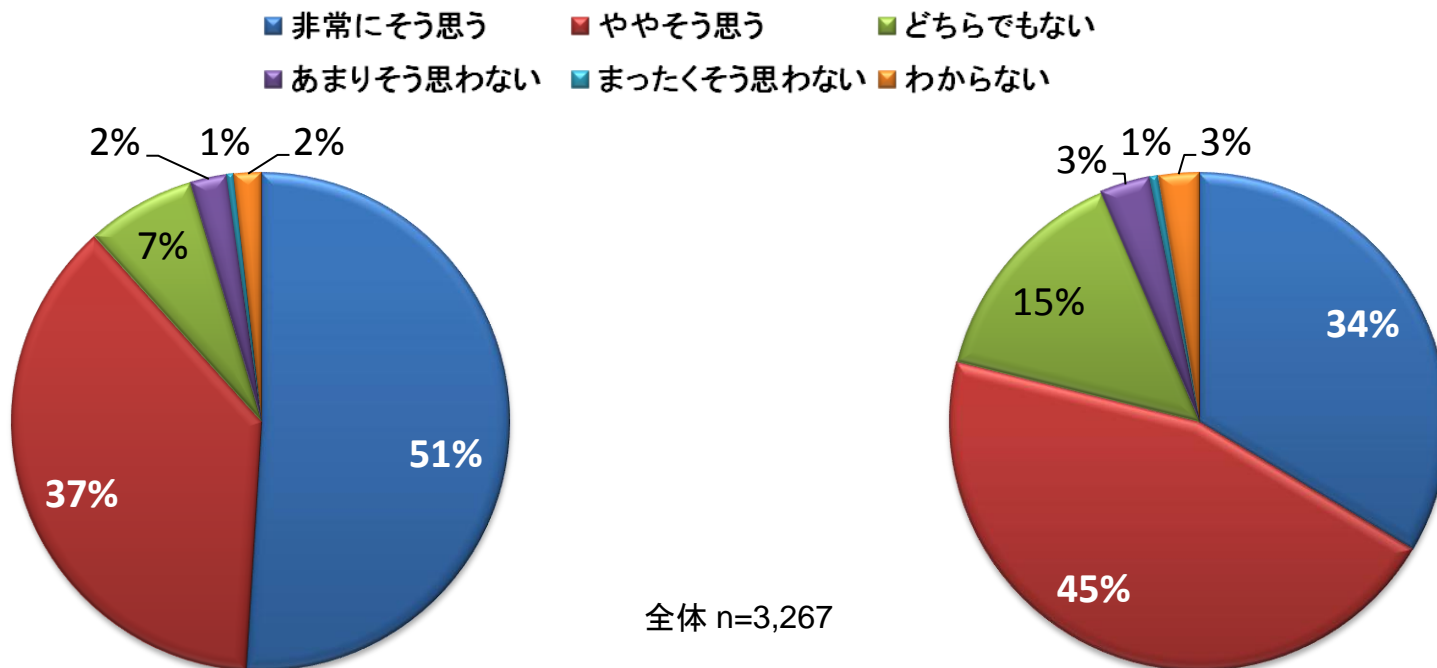
Q9. ドラッグラグに関して、あなたはどのように思いますか。下記の中から最も近いものを1つだけお知らせください。

Q10. 海外で既に使用されている新しくより優れた医薬品を、日本の患者さんがより早い段階で(可能であれば海外と同時に)使用できるようになることはどの程度重要ですか。下記の中から最も近いものを1つだけお知らせください。

# 9割がドラッグラグ解消に向けた政府の対策強化を希望している



- 88%が、政府がドラッグラグ解消のための対策を強化すべきだと思っている。
- 「新しい医薬品の開発が、QOL向上や健康的に長生きする事につながる可能性がある」と答えた人は全体の79%。



Q11. 海外で既に使用されている新しくより優れた医薬品を、時差無く日本の患者さんも使用できるようにするため、開発環境の改善や承認の迅速化など政府が対策を強化すべきだと思いますか。下記の中から最も近いものを1つだけお知らせください。

Q12. 新しい医薬品の開発が、あなたの日常生活の質の向上や健康的に長生きできることにつながる可能性があると思いますか。下記の中から最も近いものを1つだけお知らせください。

# 新薬の治験参加について

# 回答者の半数が「治験」を認知しているが、 参加経験者は全体の4.7%



P/RMA

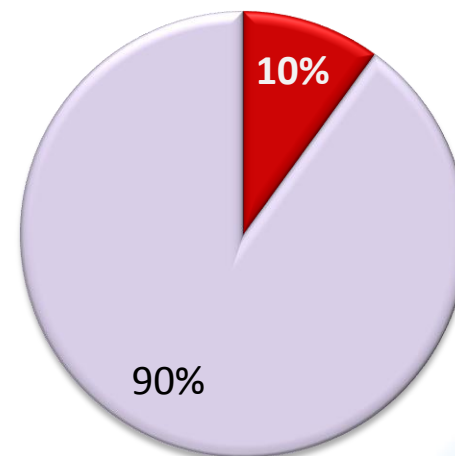
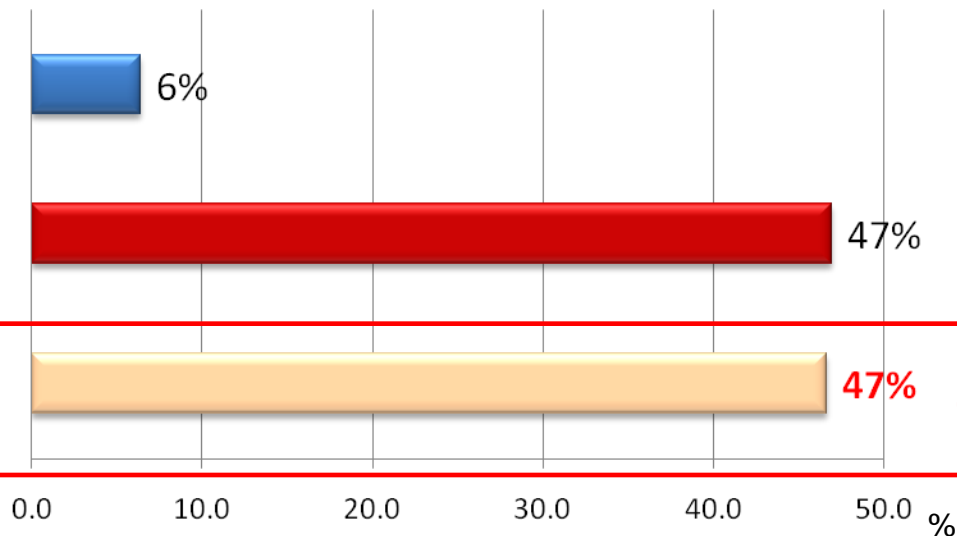
- 47%が治験について「よく知っている」と回答。  
そのうち、「治験参加経験者」は10%、全体では4.7%であった。
  - なお、大都市および政令指定都市では治験認知52%、治験参加経験14%であるのに対して、地方では治験認知41%、治験参加経験7%と差が見られる。

## 【治験とは】

くすりの候補(治験薬)が、安全で、実際に人に効果があるかどうかを調べるための臨床試験を「治験」と呼びます

■ よく知っている ■ 聞いたことはあるがよく知らない ■ 知らない

■ 参加経験有り ■ 参加経験無し



Q13.新しい医薬品が使えるようになるまでに、製薬企業が上記の「治験」と呼ばれる試験を行い、安全性や効果を確認していることを知っていますか。[全体 n=3,267]

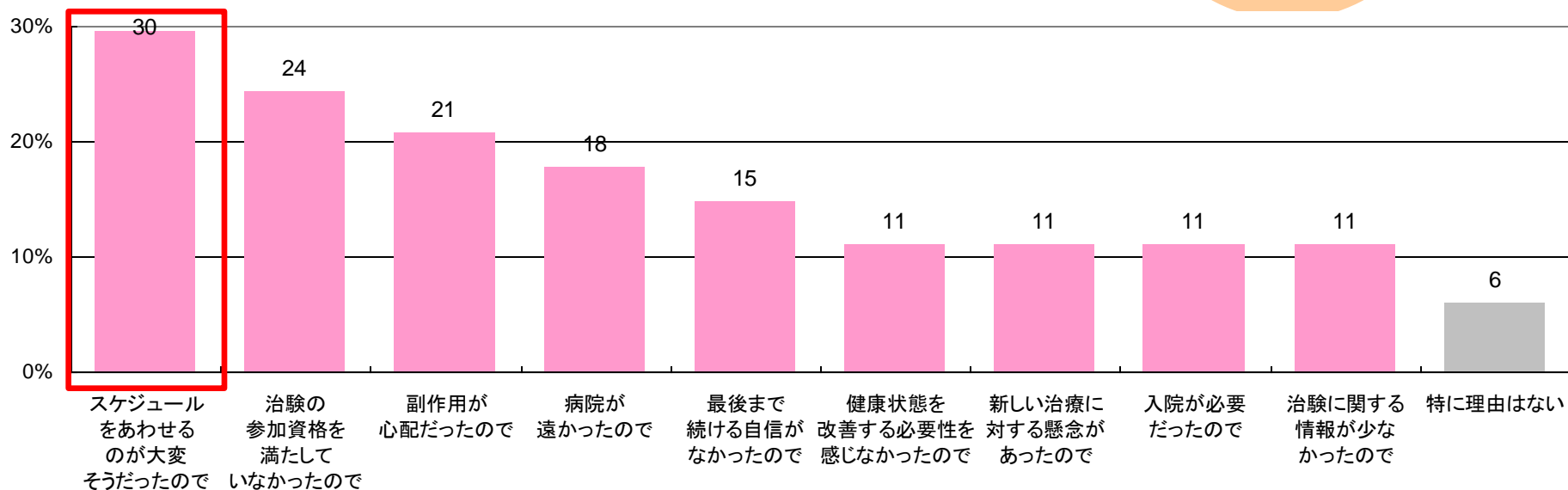
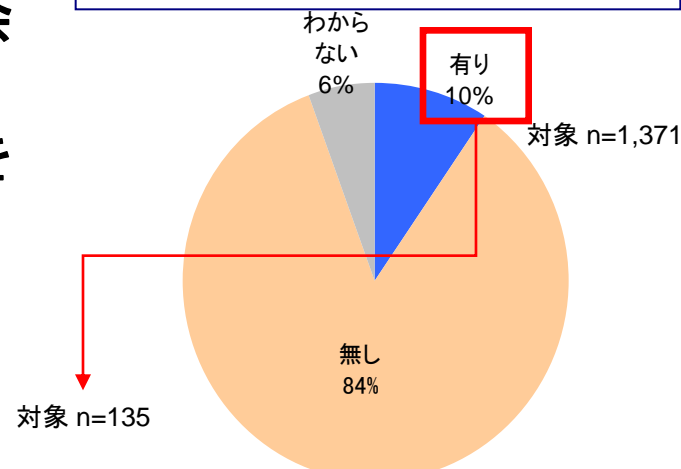
Q14.新しい医薬品を開発するための「治験」と呼ばれる試験に参加したことはありますか。[治験認知ベース n=1,524]

# 治験未参加者の1割が参加機会を見送り「時間調整が大変そう」が理由



- 治験参加経験のない対象者のうち、参加の機会がなかったと答えた人が84%。
- 10%が、治験に参加する機会があったが参加を見送ったと答えている。
- 最も多かった理由は、「スケジュールをあわせるのが大変そうだったので」。

Q17: 治験の参加機会[治験参加経験無し対象者]



Q18. 「治験」への参加機会があったにも関わらず、「治験」に参加しなかった理由を下記の中からいくつでもお知らせください。  
 対象 n=135 (Q17.「今までに、治験と呼ばれる試験に参加する機会がありましたか。」に対して「有り」と答えた人。)



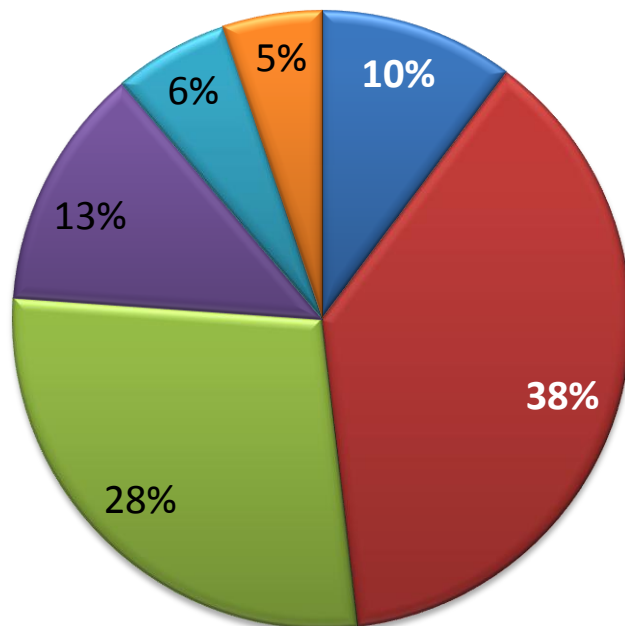
# 治験未参加者の半数が、参加に関心・興味



P/RMA

- 治験を認知していない、または治験参加経験のない対象者の48%が、「より安全」、「より治療に効果的」、「より副作用が少ない」といった新しい医薬品の開発につながる可能性があるのであれば、治験への参加に関心・興味を持っている。

■ 非常に興味がある ■ やや興味がある ■ どちらでもない ■ あまり興味はない ■ まったく興味はない ■ わからない



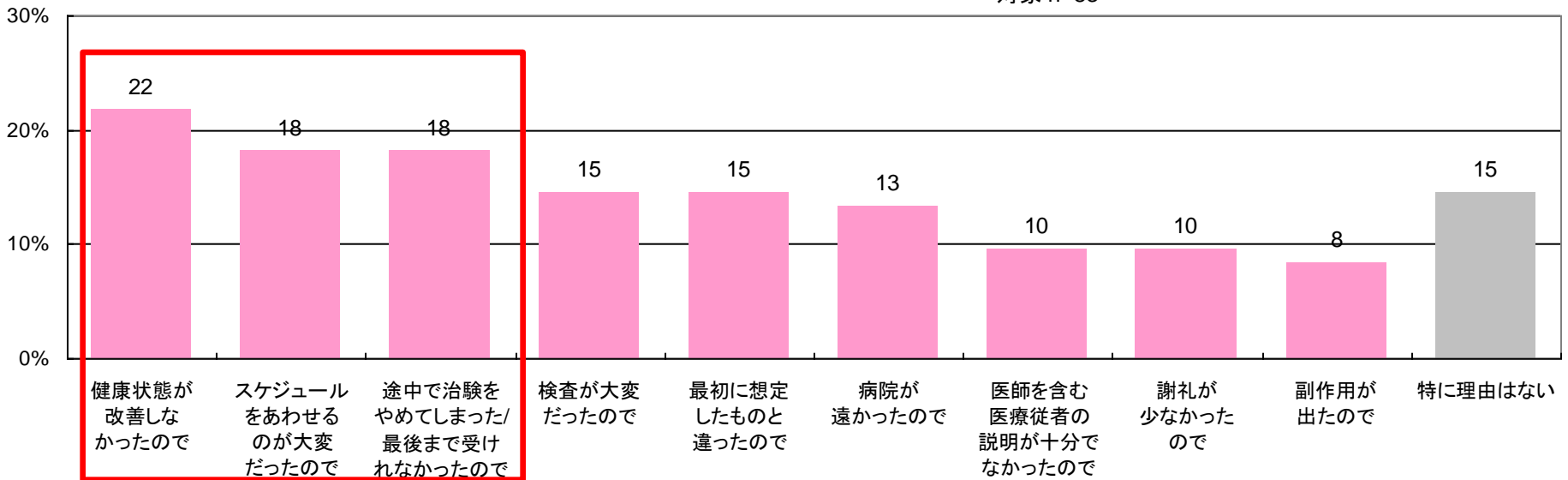
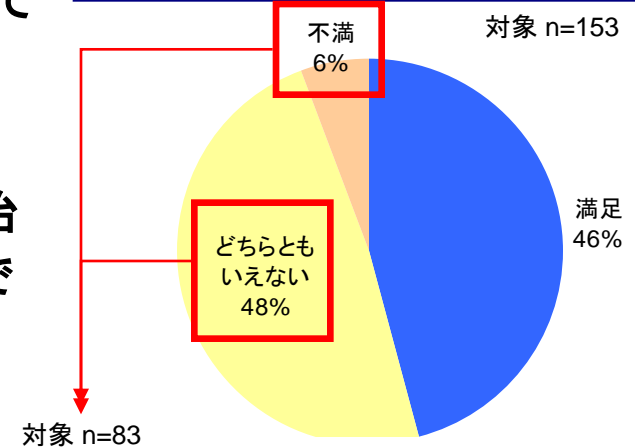
Q19.「より安全」、「より治療に効果的」、「より副作用が少ない」といった新しい医薬品の開発につながる可能性があるあれば、「治験」と呼ばれる試験に参加してみたいと思いますか。下記の中から最も近いものを1つだけお知らせください。  
[治験非認知/ 治験参加経験無しベース n=3,114]

# 参加経験者の約半数は治験に満足



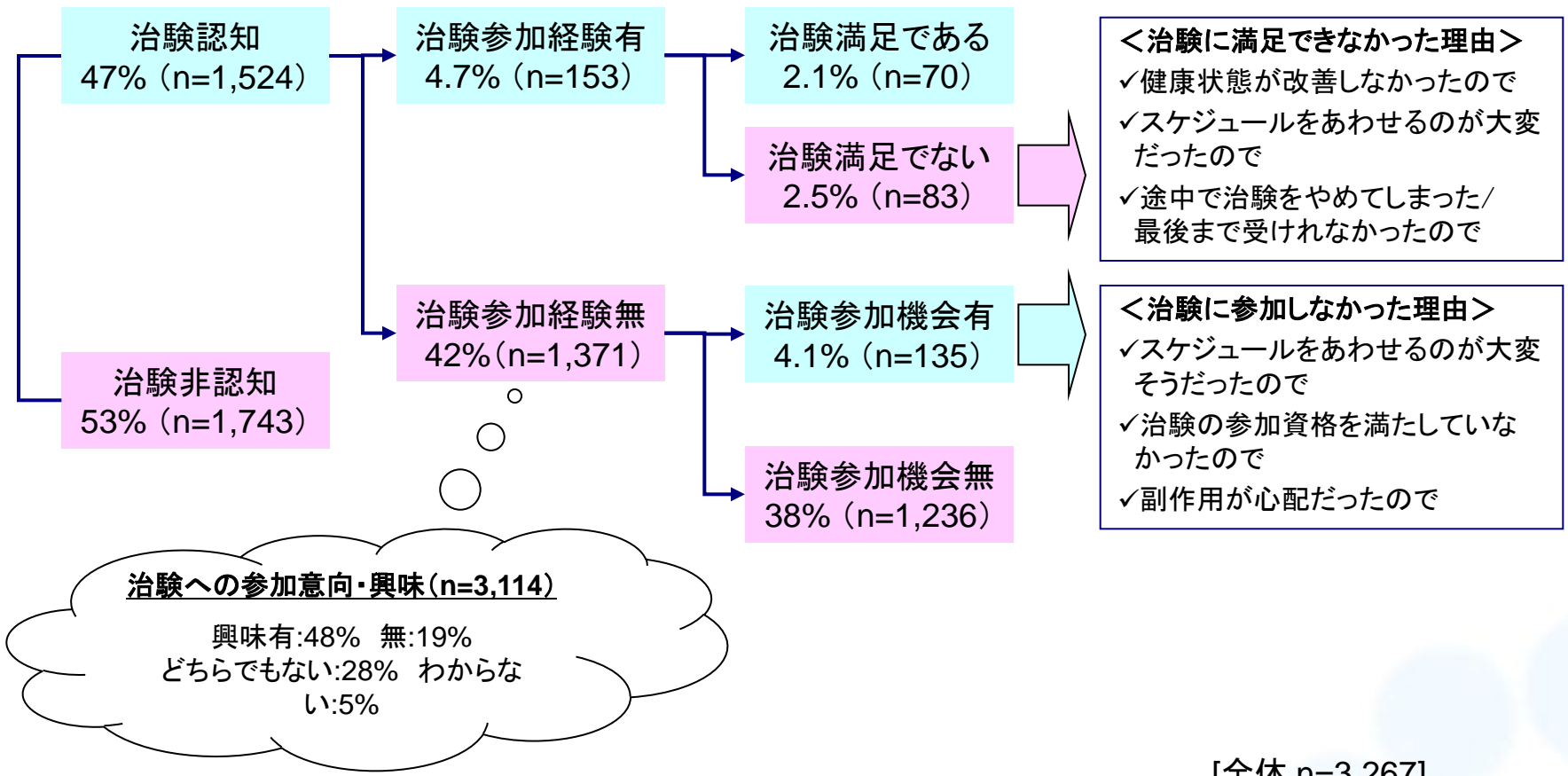
- 治験参加経験有りと答えた対象者のうち、治験に対して「満足」とした人は46%、「不満」と回答した人は6%。
- 不満足の原因は、「健康状態が改善しなかった」、「スケジュールをあわせるのが大変だった」、「途中で治験をやめてしまった/最後まで受けられなかった」などであった。

Q15: 治験参加の満足[治験参加経験有り対象者]



Q16. 「治験」への参加が満足いくものではなかった理由を下記の中からいくつでもお知らせください。【複数回答】  
対象 n=83 (Q15. 「治験への参加は満足のいくものでしたか」に対して不満あるいはやや不満と答えた人。)

# 新薬の治験参加に関するまとめ



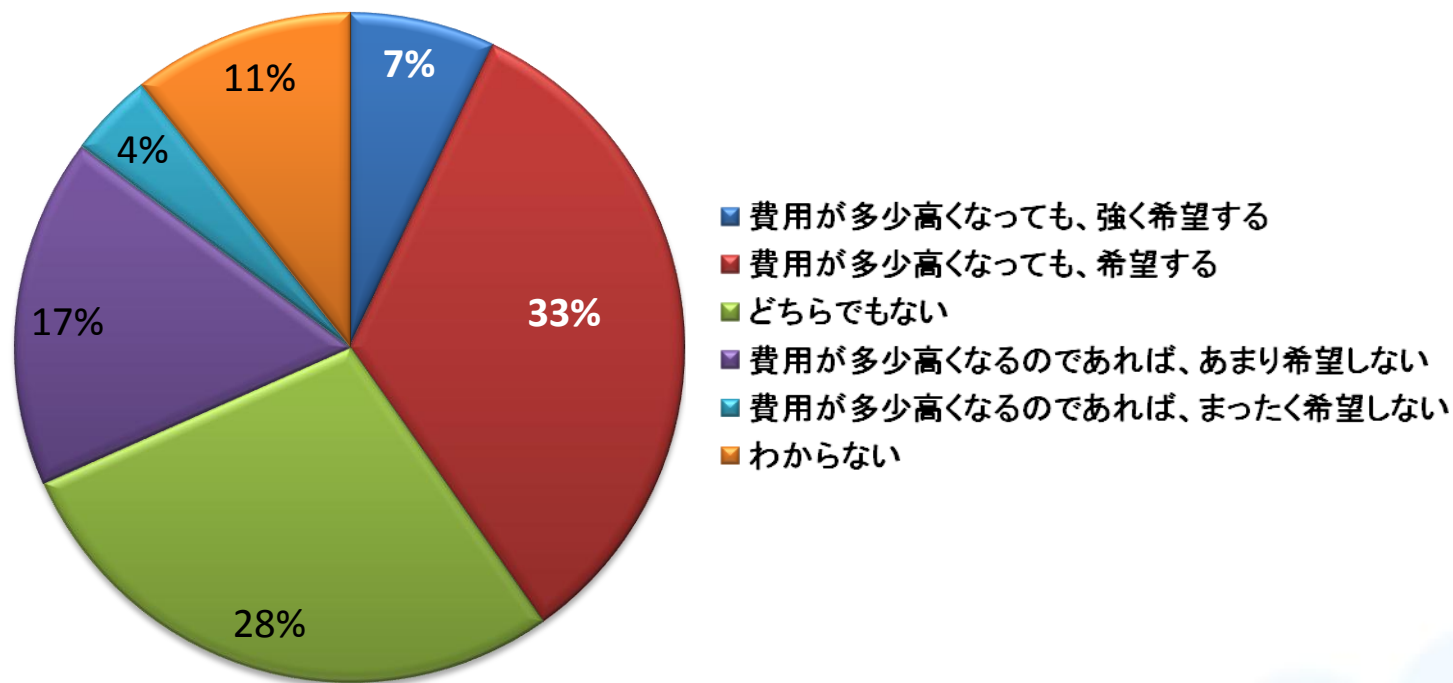
[全体 n=3,267]

# 革新的な医療について

# 多少費用が高くても、世界最新の医薬品を使用したいと4割が回答



- 病気になった場合、多少費用が高くなっても、世界最新の医薬品の使用を「強く希望する」、「希望する」と答えた人が全体の40%。



Q23. 病気になった場合、費用が多少高くなっても、あなたは世界最新の医薬品をどの程度希望しますか。下記の中から最も近いものを1つだけお知らせください。[全体 n=3,267]

# 世界最新の医薬品の使用希望： 疾患別では、がん、アレルギー、疼痛の患者が高い



- 「現在薬を使用・服用中」で、多少費用が高くなっても最新の医薬品の使用を「強く希望する」、「希望する」と答えた4割の対象者を疾患別にみると、がん、アレルギー疾患、疼痛患者の割合が高い。

■ 費用が多少高くなっても、強く希望する  
■ 費用が多少高くなっても、希望する  
■ どちらでもない  
■ 費用が多少高くなるのであれば、あまり希望しない  
■ 費用が多少高くなるのであれば、まったく希望しない  
■ わからない

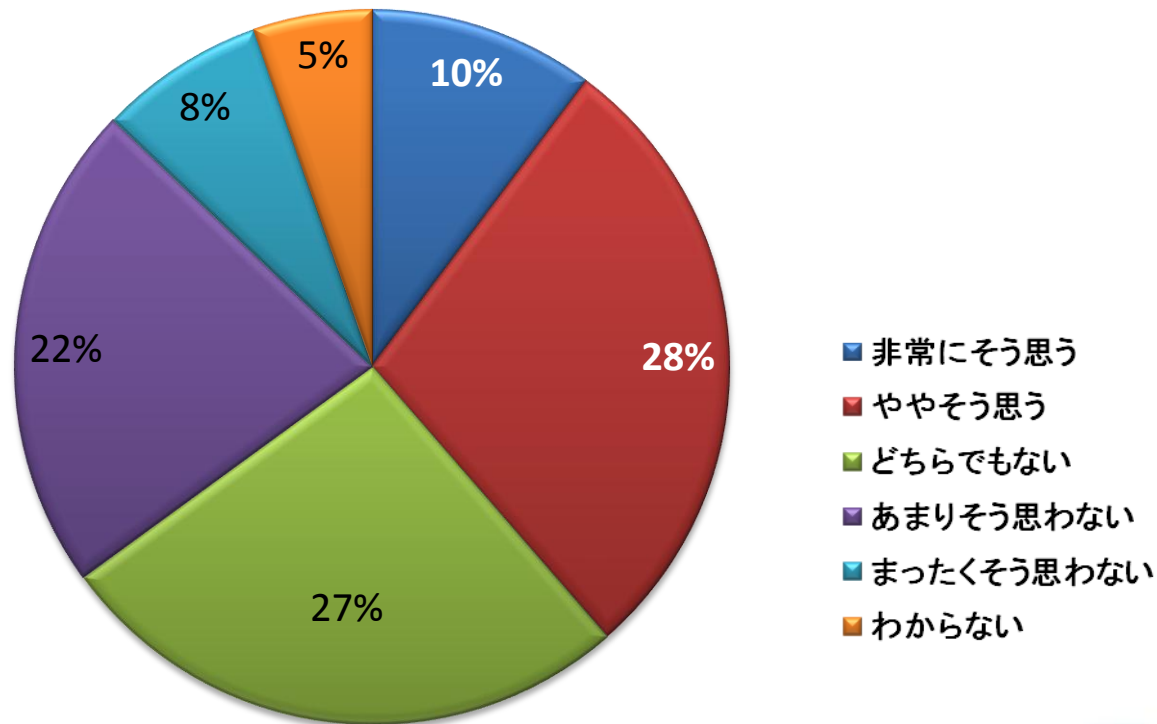


Q23. 病気になった場合、費用が多少高くなっても、あなたは世界最新の医薬品をどの程度希望しますか。下記の中から最も近いものを1つだけお知らせください。[30サンプル以上の9疾患の患者積み上げベース、複数回答有]

# 4割が、一人当たりの医療費を先進諸国平均レベルまで増やすべきと回答



- 39%が、超高齢化社会に向け、一人当たりの医療費を先進諸国平均レベルまで増やすべきだと思っている。



Q22. 【現状】日本は、その国の経済力の目安となるGDP(国内総生産)の数値や65歳以上の高齢者一人当たりの割合が、ヨーロッパやアメリカなど先進諸国の平均より高いにもかかわらず、一人当たりの医療費は先進諸国の平均を下回っています。超高齢化社会に向け、一人当たりの医療費も先進諸国平均レベルまで増やすべきだと思いますか。下記の中から最も近いものを1つだけお知らせください。[全体 n=3,267]

# まとめ : PhRMAの取り組み



- 治験環境の改善等によるドラッグラグの解消
- 日本のヘルスケアを取り巻く環境改善

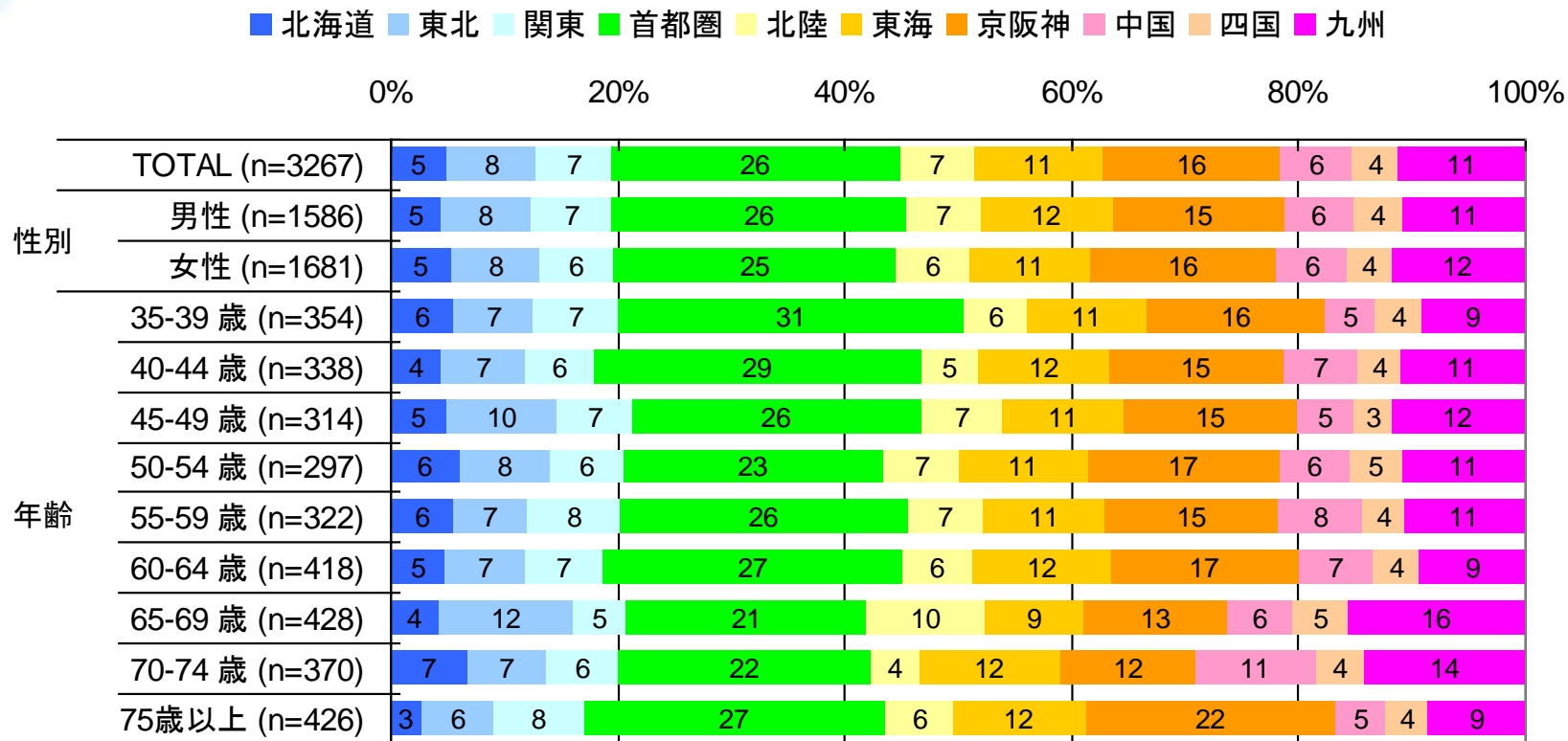




## 参考資料1:対象者属性

# F1: 地域

F1: 地域[全体]



\* 上記地域10区分は全体が日本の構成比となるように、「性別(2区分) × 年齢(7区分)」において回収を行なった結果である。

\* なお、65歳以上は1区分として回収を行なったが、「65-69歳」「70-74歳」「75歳以上」における傾向を見ることを目的として、分析軸は年齢を9区分としている。

# F2,3: 職業・世帯年収

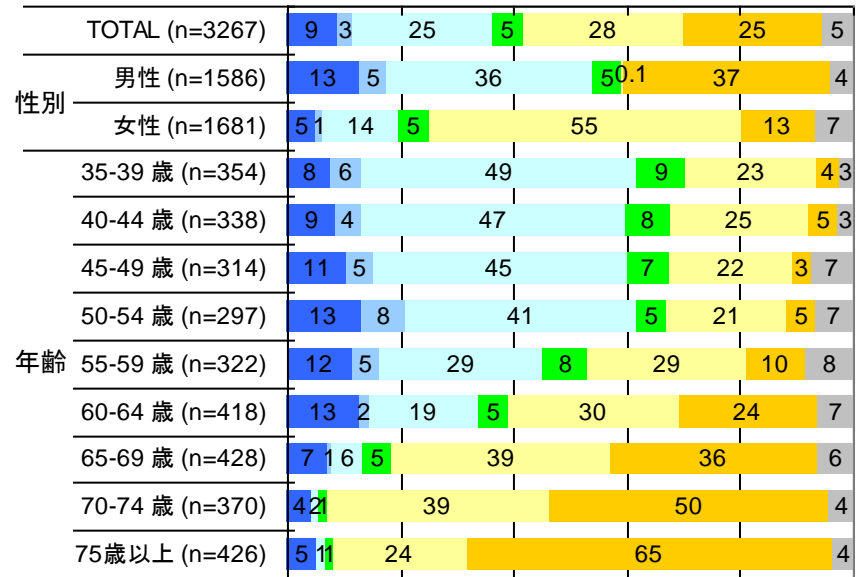


P/RMA

F2: 職業[全体]

■ 自営業 ■ 公務員 ■ 会社員 ■ 自由業・フリーター ■ 主夫・主婦 ■ 定年・無職 ■ その他

0% 20% 40% 60% 80% 100%

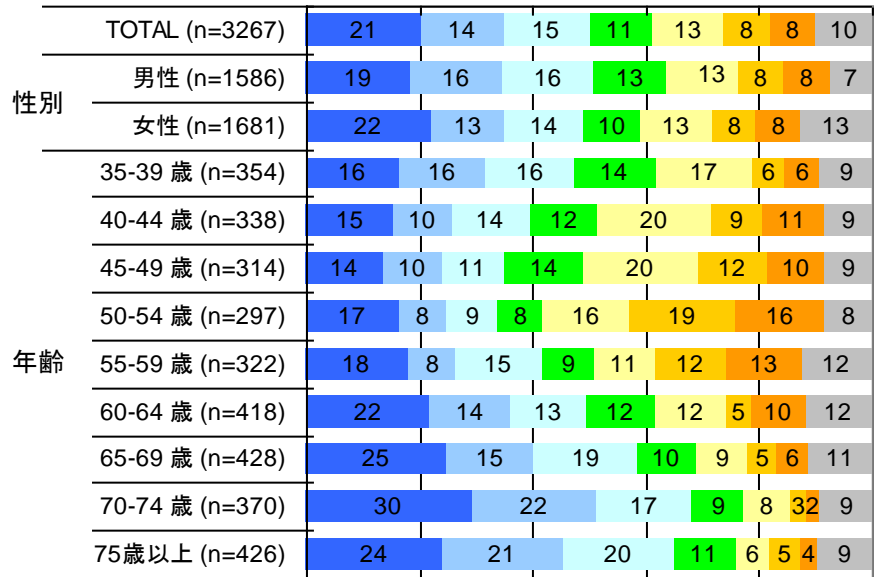


F3: 世帯年収[全体]

■ 300 万円未満 ■ 300 ~399 万円 ■ 400 ~499 万円 ■ 500 ~599 万円

■ 600 ~799 万円 ■ 800 ~999 万円 ■ 1,000 万円以上 ■ 答えたくない

0% 20% 40% 60% 80% 100%



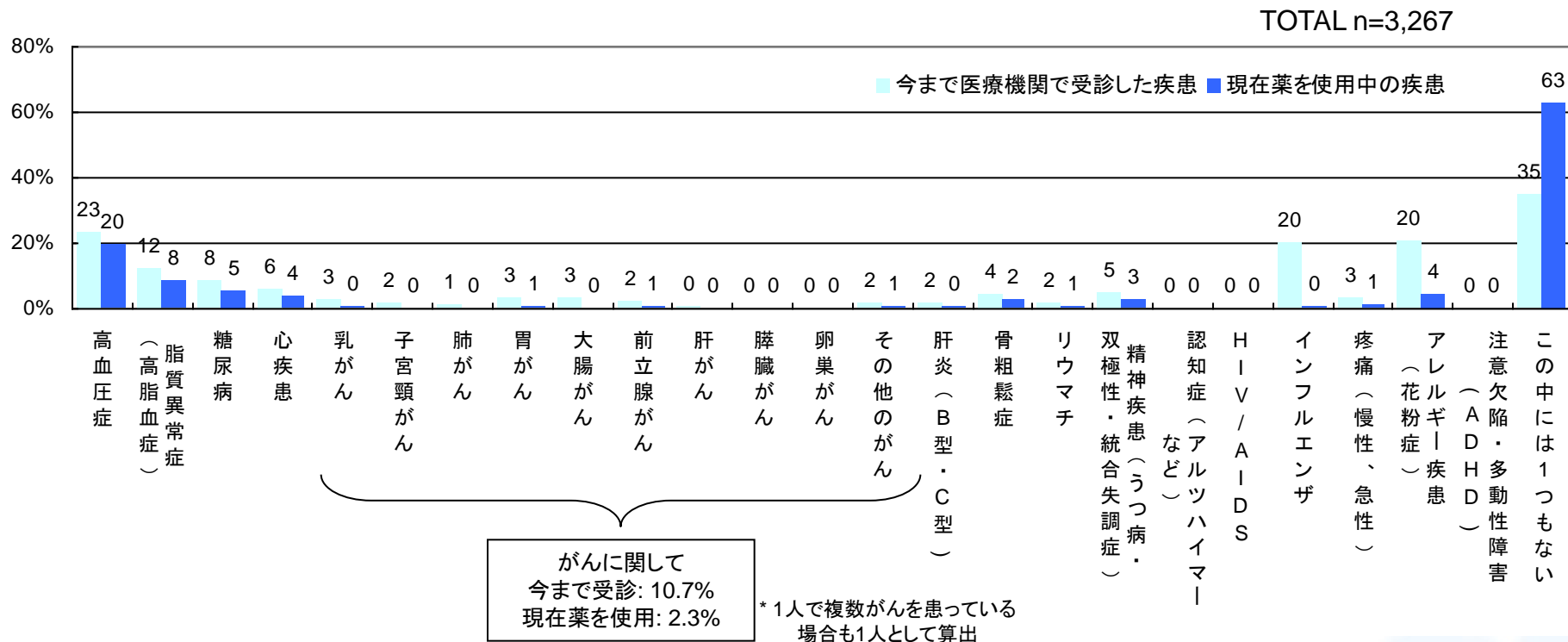


## 參考資料2: 調查結果詳細

# 37%が主な24疾患のうちいずれかで現在薬を使用・服用中 服用率が高いのは高血圧症、脂質異常症



- 35歳以上の対象者のうち、下記の24疾患について「今までに医療機関で受診したことのある疾患」「現在薬を使用・服用中の疾患」は次の通りである。
- 下記24疾患のうち、「現在薬を使用・服用中の疾患」が1つ以上あるとしたのは37%。



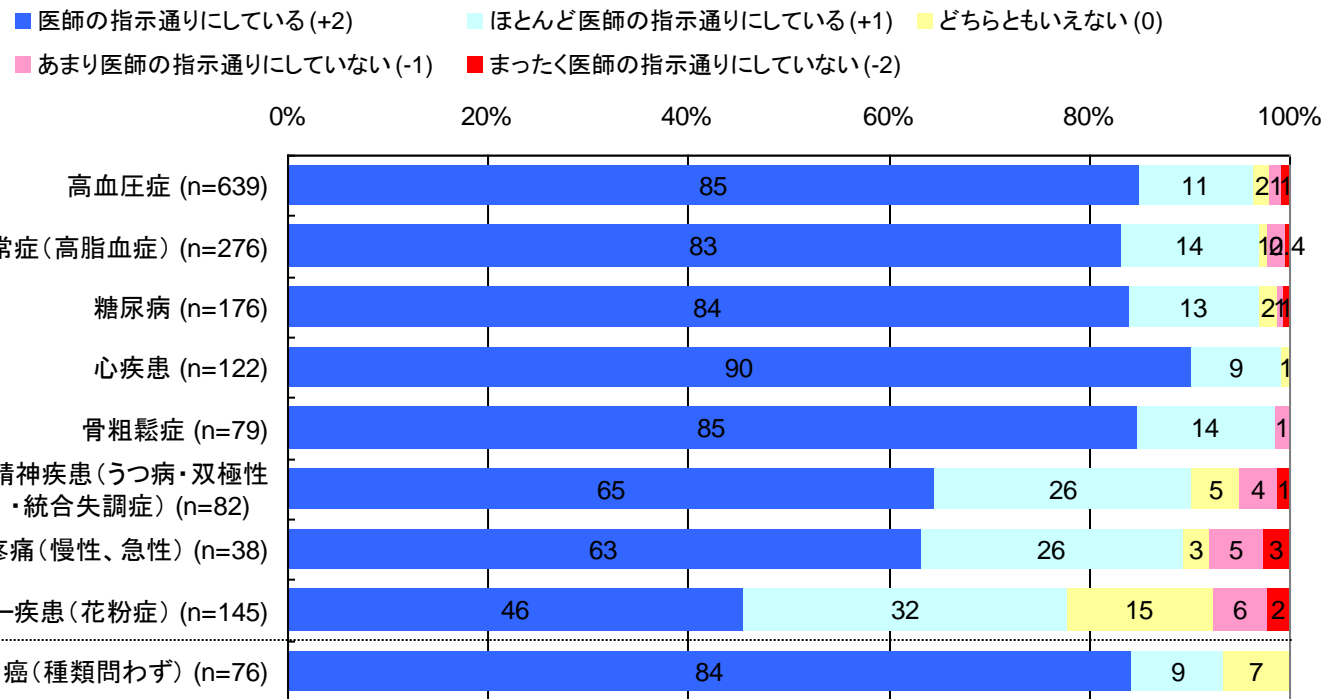
Q1. 下記の中から、今までに医療機関で受診したことのある疾患をいくつでもお知らせください。 <複数回答有> [全ベース]  
Q2. そのうち、現在薬を使用・服用中の疾患をいくつでもお知らせください。 <複数回答有> [全ベース]

# 疾患別服用コンプライアンス、 遵守率は比較的高い



P/RMA

- 「現在薬を使用・服用中の疾患」における薬剤使用・服用状況をみると、主な疾患における服薬コンプライアンスの遵守率は高いが、「精神疾患(うつ病・双極性障害・統合失調症)」「疼痛(慢性、急性)」および「アレルギー疾患(花粉症)」は、他の疾患と比較するとコンプライアンスの遵守率はやや低い



\* n=74だが2名が複数がんを患っているため、本設問ではn=76とした

Q3. 現在薬を使用・服用中の疾患について、医師の指示通りに使用・服用していますか。下記の中から最も近いものを1つだけお知らせください。\* 30サンプル未満の疾患は省略

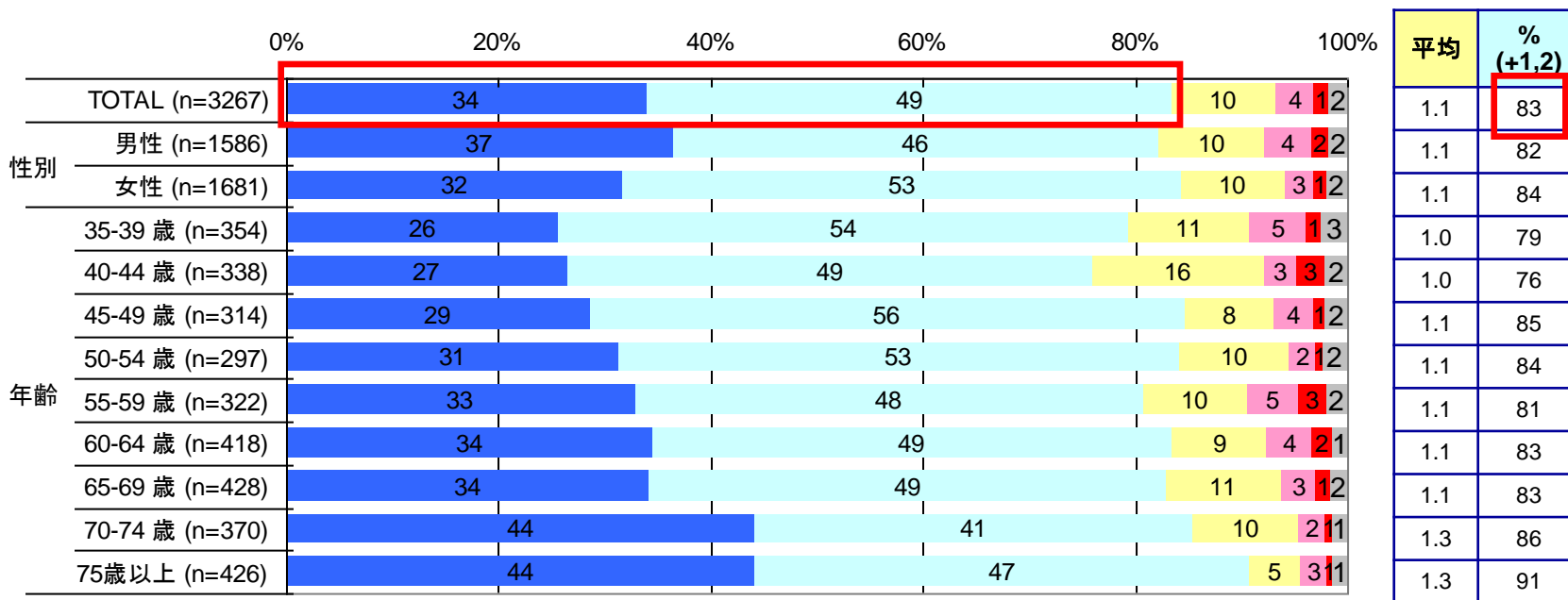
# 8割以上の人が、処方薬を重要視



P/RMA

- 医師から処方される薬について、「非常に重要である」、「やや重要である」と答えた人は83%。

■ 非常に重要である (+2) ■ やや重要である (+1) ■ どちらともいえない (0) ■ あまり重要ではない (-1) ■ まったく重要ではない (-2) ■ わからない



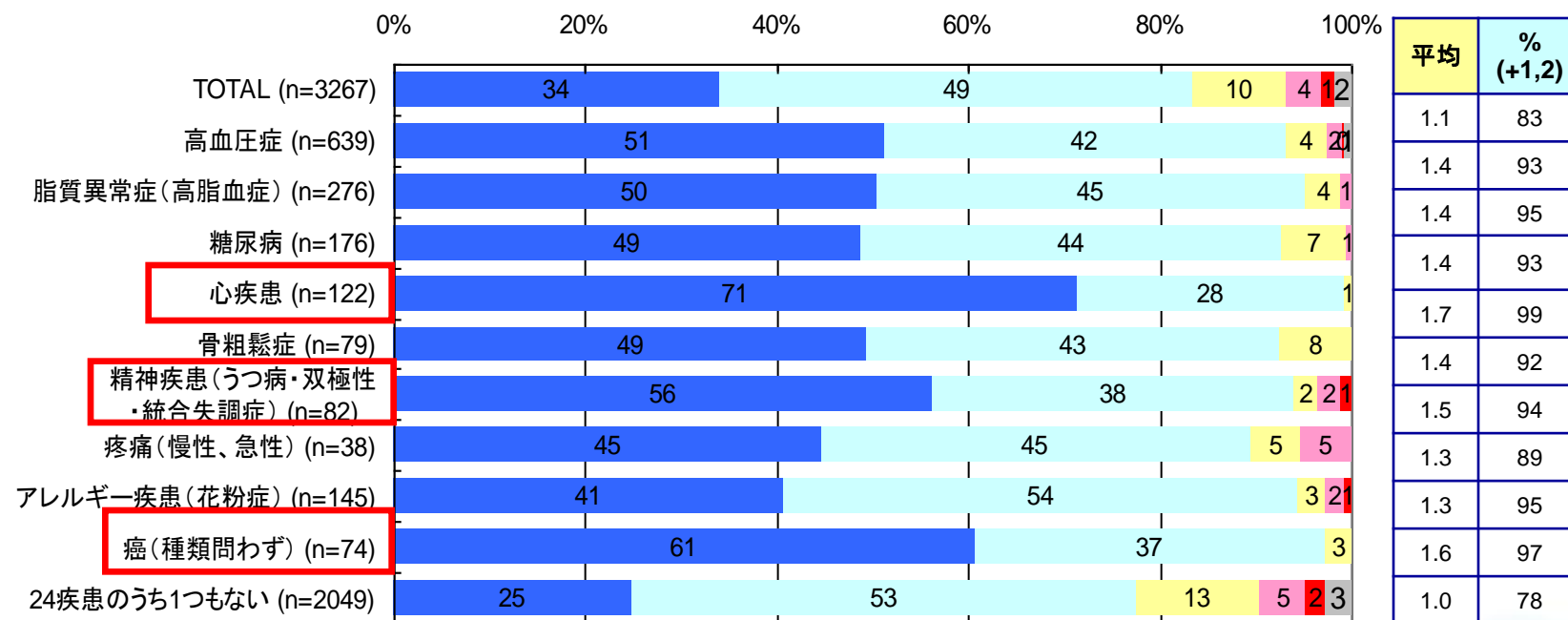
Q4. あなたにとって医師から処方される薬はどの程度重要ですか。下記の中から最も近いものを1つだけお知らせください。  
[全体 n=3,267]

# 心疾患、がん、精神疾患患者にとって、処方薬は「非常に重要」



- 「現在、処方薬を使用・服用中」と答えた人のうち疾患別に薬への意識をみると、心疾患、がん、精神疾患患者が、医師からの処方薬を「非常に重要である」と答えている割合が高い。

■ 非常に重要である (+2) ■ やや重要である (+1) ■ どちらともいえない (0) ■ あまり重要ではない (-1) ■ まったく重要ではない (-2) ■ わからない



Q4. あなたにとって医師から処方される薬はどの程度重要ですか。下記の中から最も近いものを1つだけお知らせください。

\* 30サンプル未満の疾患は省略。

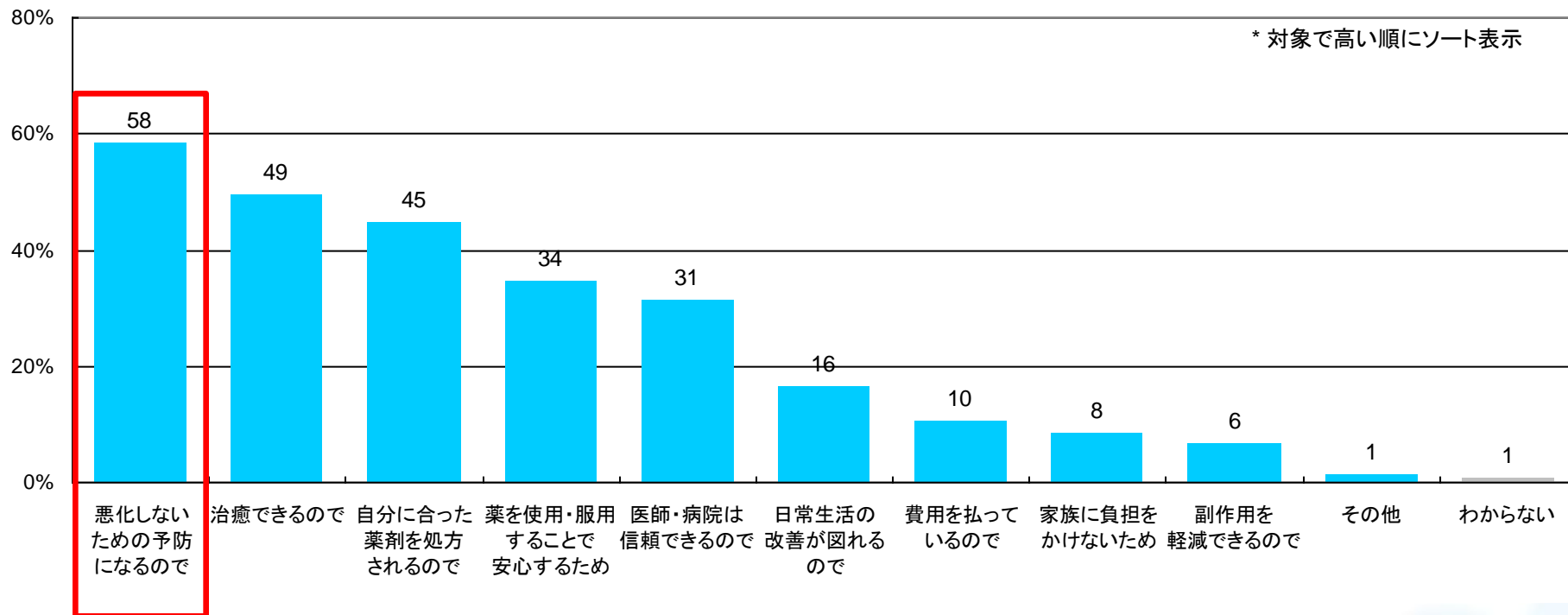


# 処方薬が重要な大きな理由は「悪化しないための予防」



P/RMA

- 処方薬が「非常に重要」および「やや重要である」と答えた理由の6割が「悪化予防のため」

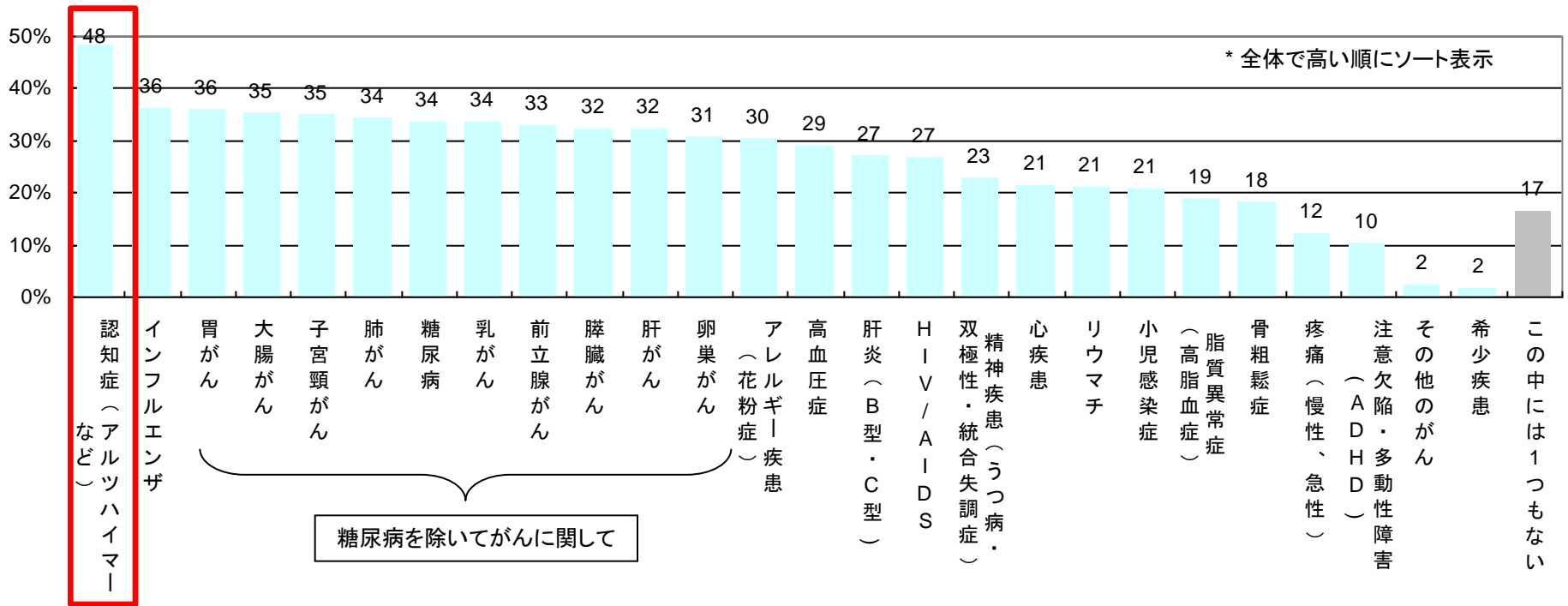


Q5. 医師から処方される薬が、あなたにとって重要または有益だと思うのはなぜでしょうか。下記の中からあてはまるものをいくつかもお知らせください。【複数回答有】対象 n=2,721 [Q4:非常に重要/ やや重要選択対象者]

# 新薬が最も求められている疾患： 認知症、インフルエンザワクチン、癌、糖尿病



- 83%の回答者が、より安全でより効果的な新薬の開発が必要と複数回答している。新薬が必要とする疾患は、「認知症(アルツハイマーなど)」が最も多く、次いで「インフルエンザ」、「糖尿病」および「様々ながん種」であった。



Q7. 「より安全」で「より効果的」な新しい医薬品(ワクチン含む)が必要だと思われる疾患に関して、下記の中からあてはまるものをいくつかもお知らせください。【複数回答有】[全体 n=3,267]

# 新薬開発実態はあまり理解されていない



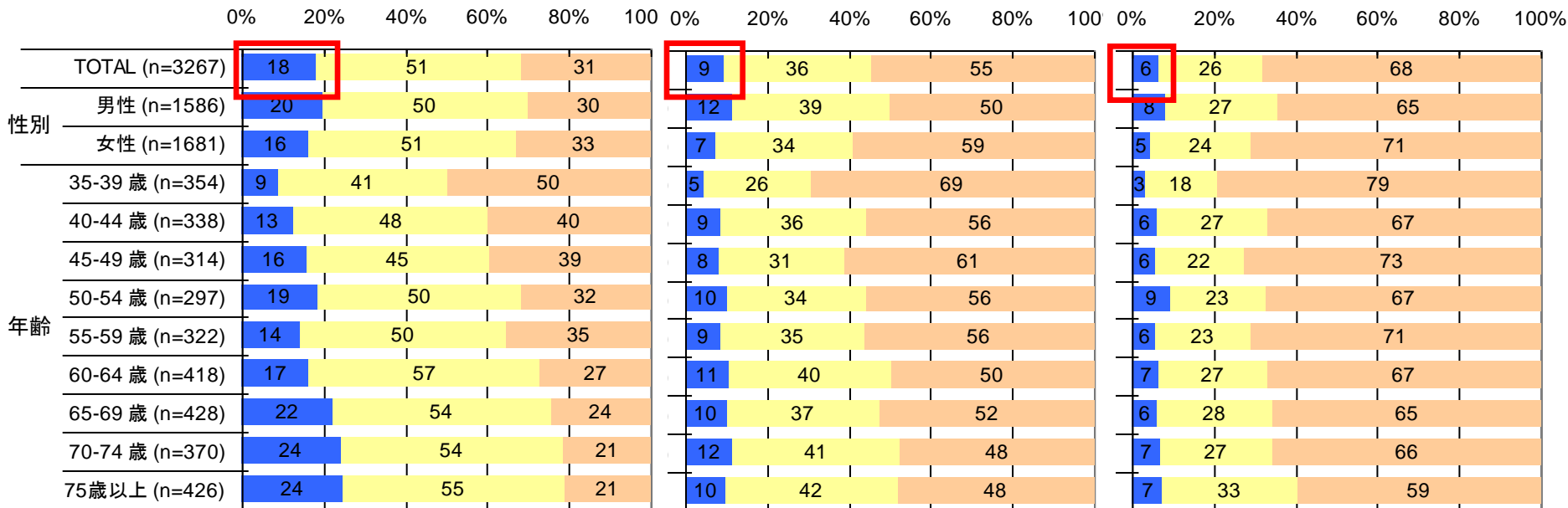
- 新薬の研究開発に関して「開発に要する期間」を「よく知っている」と答えた人は、20%弱。「高い開発費用」、「低い成功確率」を「よく知っている」との回答は、10%を下回る。

■ よく知っている      ■ 聞いたことはあるがよく知らない      ■ 知らない

(1) 新しい医薬品を開発するために、平均10年から12年の時間を要する

(2) 新しい医薬品を開発するために、平均約1,000億円の費用が必要である

(3) 新しい医薬品を研究し、開発するまでの過程で、約2万種類の候補物質のうち、新しい医薬品として国から承認される物質は、1つという確率である



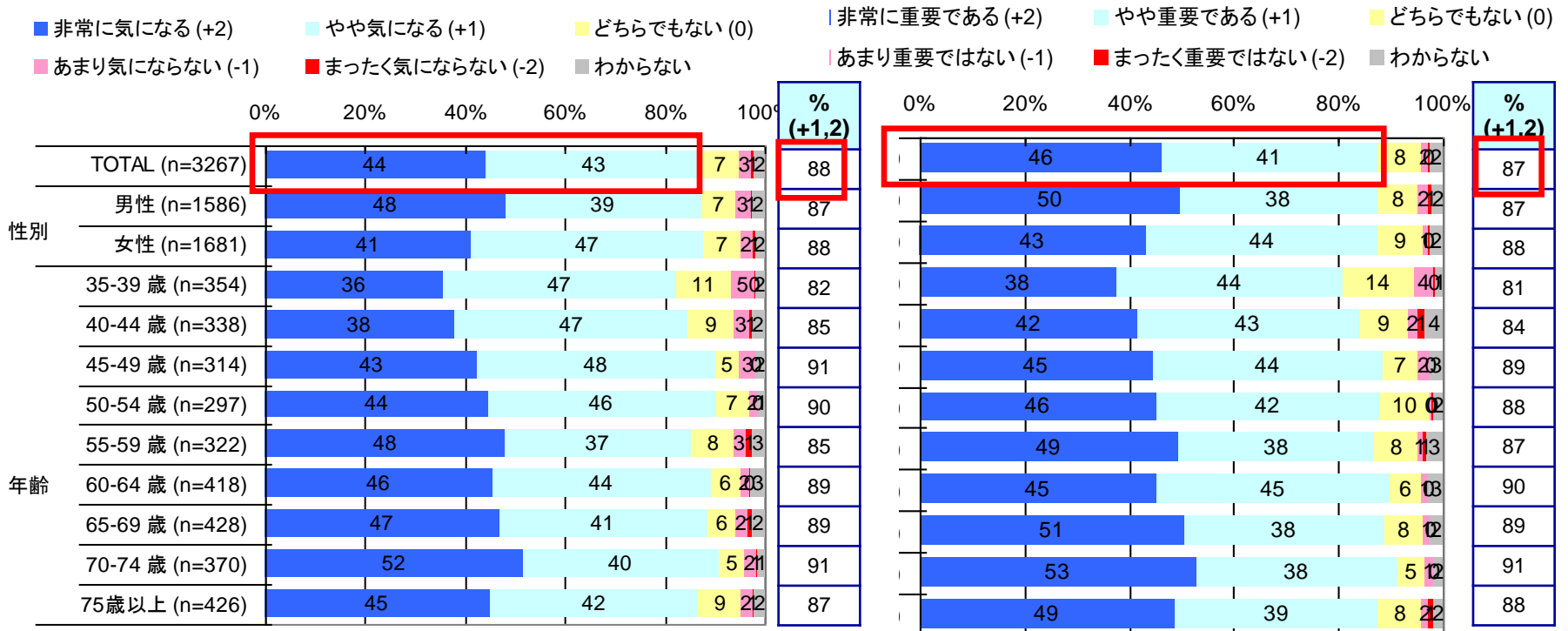
Q8. 新しい医薬品の開発/研究に関するこれらの事柄についてご存知ですか。[全体 n=3,267]

# 9割の人がドラッグラグに関心を持ち、 ドラッグラグの解消が重要だと考えている



P/RMA

- 88%の人がドラッグラグに関心を持っており、87%がドラッグラグの解消が重要だと思っている。年齢が高くなるにつれ「気になる」、「重要である」と回答する傾向。



Q9. ドラッグ・ラグに関して：海外で既に使用されている新しくより優れた医薬品が日本では使用できず、日本の患者さんが使えるようになるまでに、数年間長く時間を要することがあります。ドラッグラグに関して、あなたはどのように思いますか。下記の中から最も近いものを1つだけお知らせください。

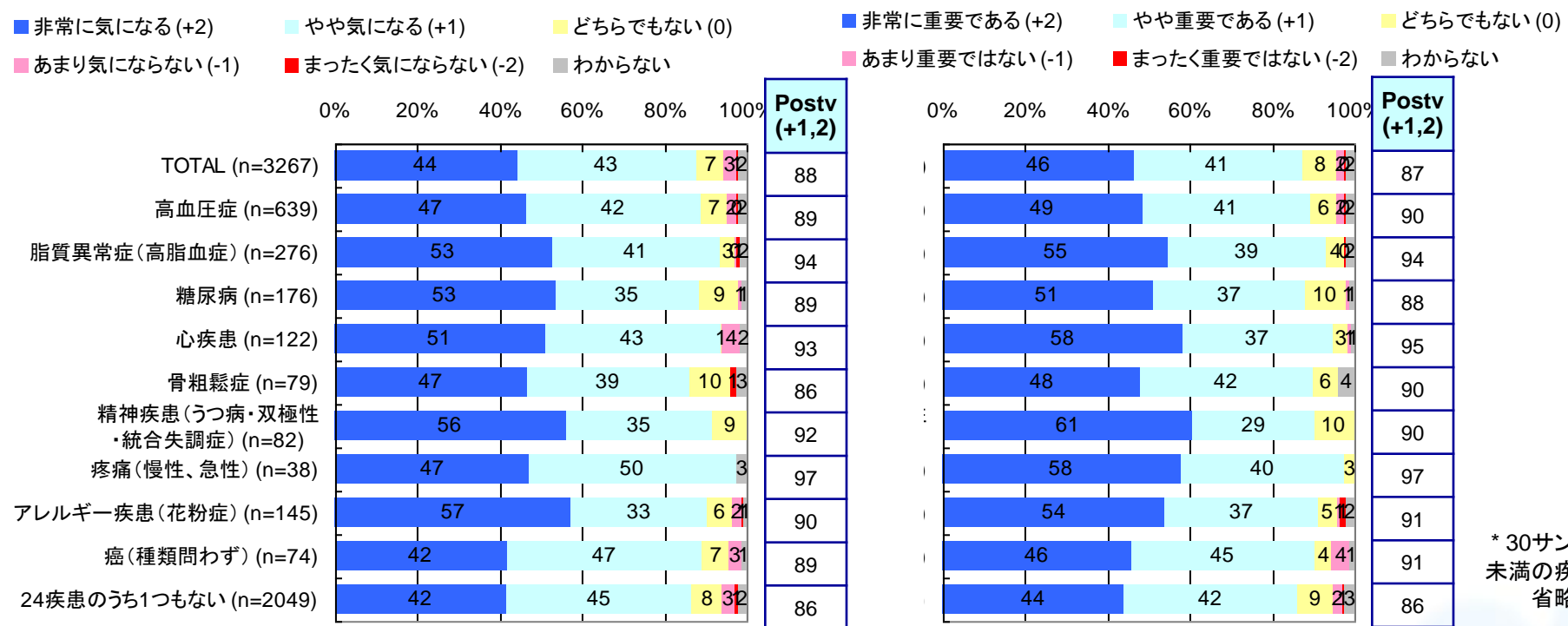
Q10. 海外で既に使用されている新しくより優れた医薬品を、日本の患者さんがより早い段階で(可能であれば海外と同時に)使用できるようになることはどの程度重要ですか。下記の中から最も近いものを1つだけお知らせください。

# 疾患別にみても、ドラッグラグへの関心は総じて高い



P/RMA

- 「現在薬を使用・服用中の疾患」別にみても「ドラッグラグに関する関心」や「ドラッグラグ解消の重要度」の割合は高い



\* 30サンプル未満の疾患は省略

Q9. ドラッグ・ラグに関して: 海外で既に使用されている新しくより優れた医薬品が日本では使用できず、日本の患者さんが使えるようになるまでに、数年間長く時間を要することがあります。ドラッグラグに関して、あなたはどのように思いますか。下記の中から最も近いものを1つだけお知らせください。

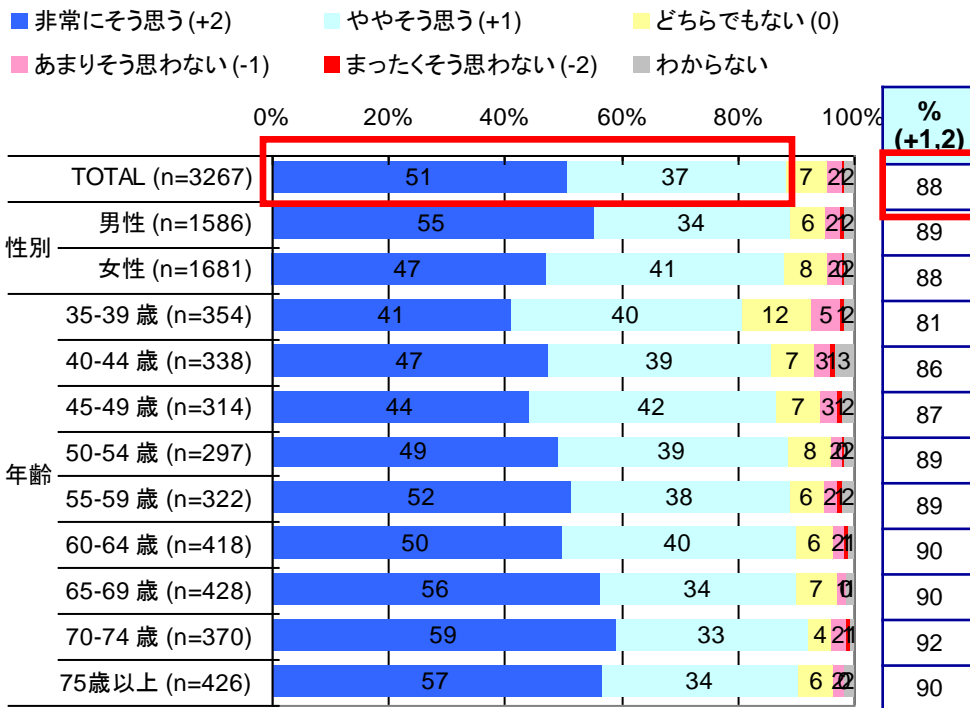
Q10. 海外で既に使用されている新しくより優れた医薬品を、日本の患者さんがより早い段階で(可能であれば海外と同時に)使用できるようになることはどの程度重要ですか。下記の中から最も近いものを1つだけお知らせください。

# 9割の人が、ドラッグラグ解消のために政府が対策を強化すべきだと思っている

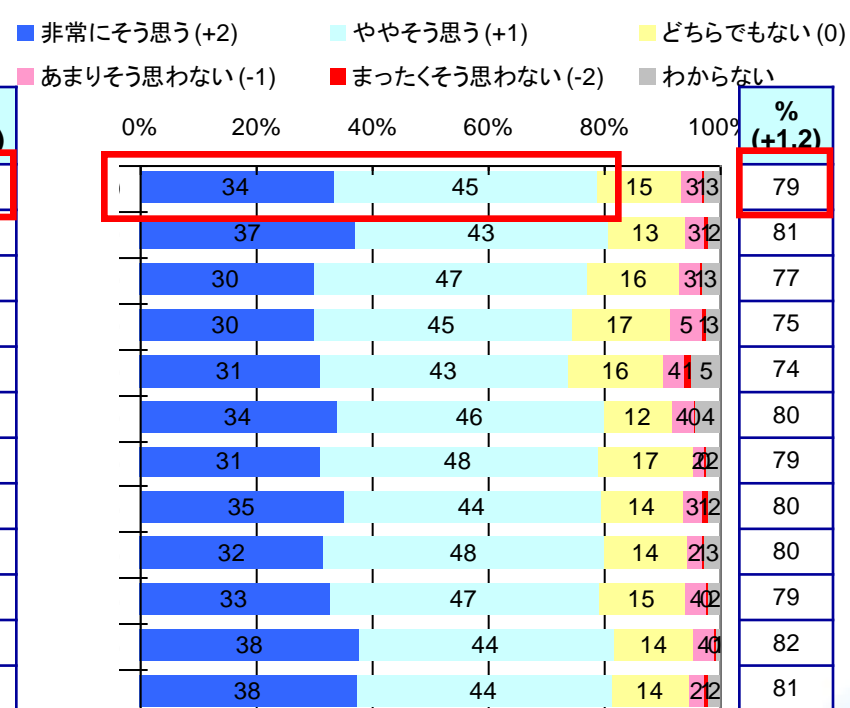


P/RMA

- 88%が、政府がドラッグラグ解消のための対策を強化すべきだと思っている。
- 「新しい医薬品の開発が、QOL向上や健康的に長生きする事につながる可能性がある」と答えた人は全体の79%。



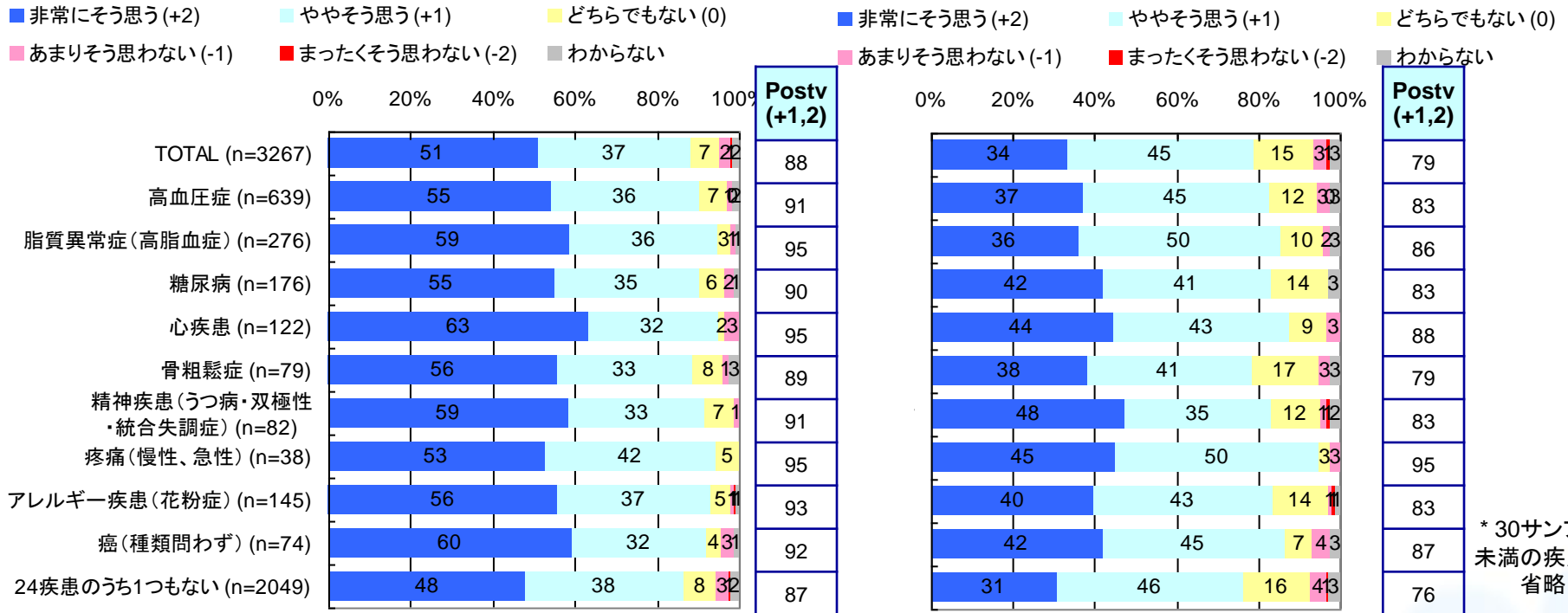
Q11. 海外で既に使用されている新しくより優れた医薬品を、時差無く日本の患者さんも使用できるようにするため、開発環境の改善や承認の迅速化など政府が対策を強化すべきだと思いますか。下記の中から最も近いものを1つだけお知らせください。



Q12. 新しい医薬品の開発が、あなたの日常生活の質の向上や健康的に長生きできることにつながる可能性があると思いますか。下記の中から最も近いものを1つだけお知らせください。

# 疾患別にみても、政府が対策を強化すべきだという割合は高い

- 「現在薬を使用・服用中の疾患」別にみると、主な9つの疾患において現在薬を使用している対象者のほうが、「対策を強化すべき」と考えている割合が高い



Q11. 海外で既に使用されている新しくより優れた医薬品を、時差無く日本の患者さんも使用できるようにするため、開発環境の改善や承認の迅速化など政府が対策を強化すべきだと思いますか。下記の中から最も近いものを1つだけお知らせください。

Q12. 新しい医薬品の開発が、あなたの日常生活の質の向上や健康的に長生きできることにつながる可能性があると思いますか。下記の中から最も近いものを1つだけお知らせください。

\* 30サンプル未満の疾患は省略

# 回答者の半数が「治験」を認知しているが、参加経験者は全体の4.7%



P/RMA

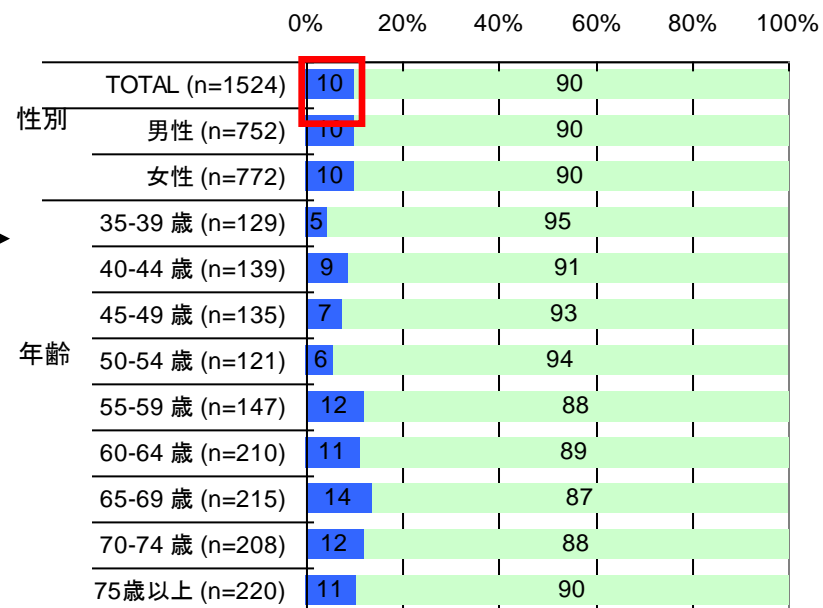
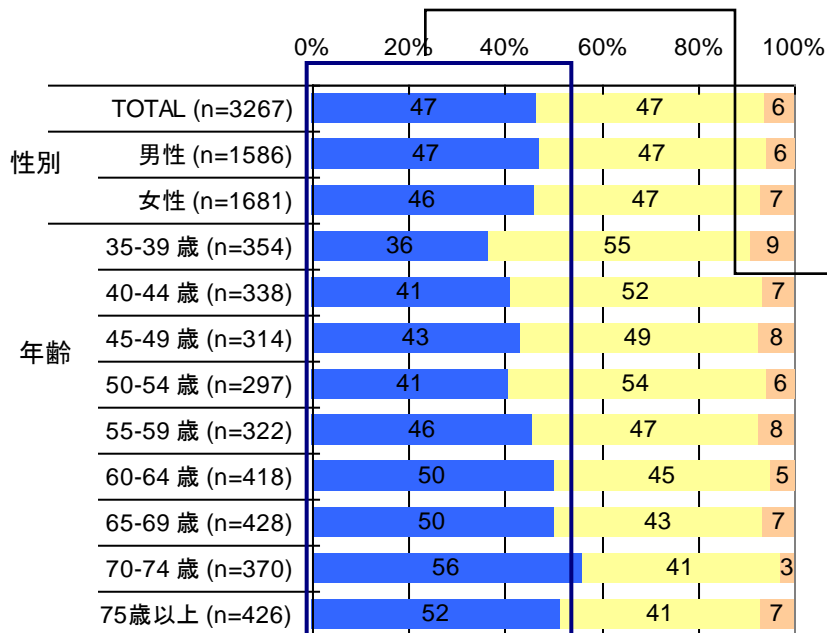
- 47%が治験についてが「よく知っている」と回答。そのうち、「治験参加経験者」は10%、全体では4.7%であった。
  - なお、大都市および政令指定都市では治験認知52%、治験参加経験14%であるのに対して、地方では治験認知41%、治験参加経験7%と差が見られる。

【治験とは】

くすりの候補(治験薬)が、安全で、実際に人に効果があるかどうかを調べるための臨床試験を「治験」と呼びます

■ よく知っている ■ 聞いたことはあるがよく知らない ■ 知らない

■ 参加経験有り ■ 参加経験無し



Q13. 新しい医薬品が使えるようになるまでに、製薬企業が上記の「治験」と呼ばれる試験を行い、安全性や効果を確認していることを知っていますか。[全体 n=3,267]

Q14. 新しい医薬品を開発するための「治験」と呼ばれる試験に参加したことはありますか。



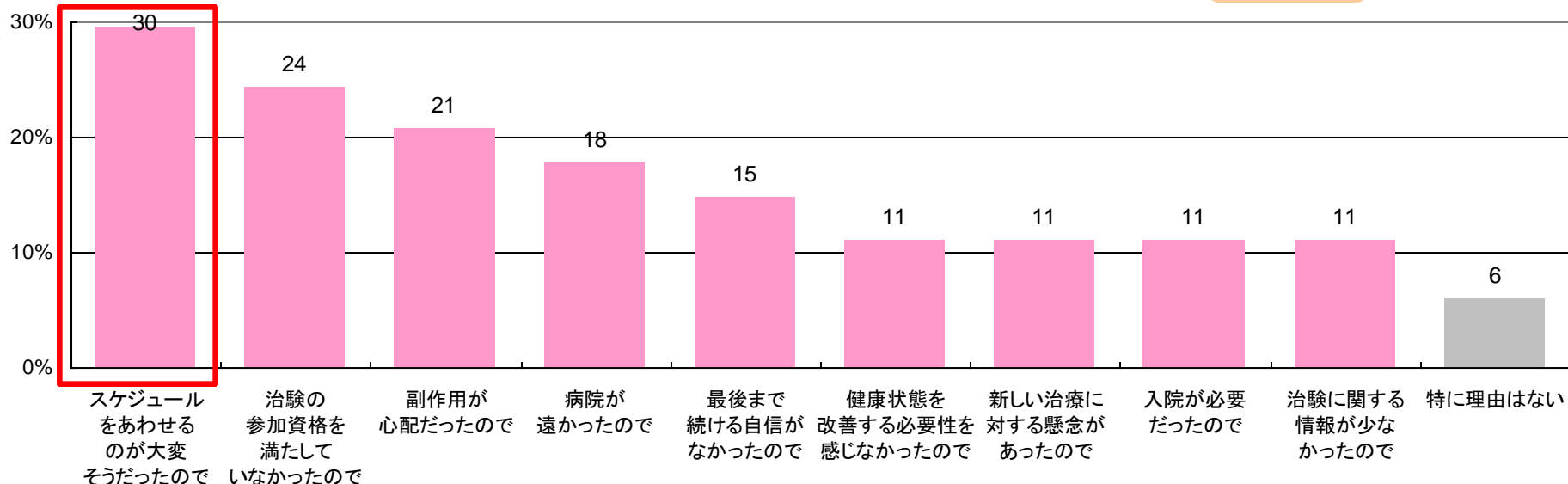
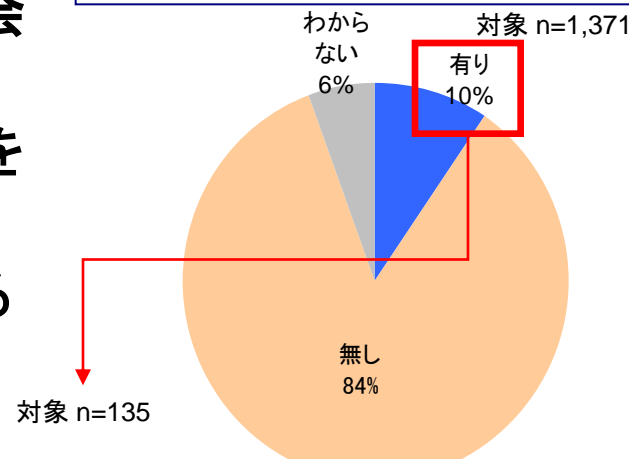
# 治験未参加者のうち1割が、参加機会を見送り「時間調整が大変そう」が理由



P/RMA

- 治験参加経験のない対象者のうち、参加の機会がなかったと答えた人が84%。
- 10%が、治験に参加する機会があったが参加を見送ったと答えている。
- 最も多かった理由は、「スケジュールをあわせるのが大変そうだったので」。

Q17: 治験の参加機会[治験参加経験無し対象者]

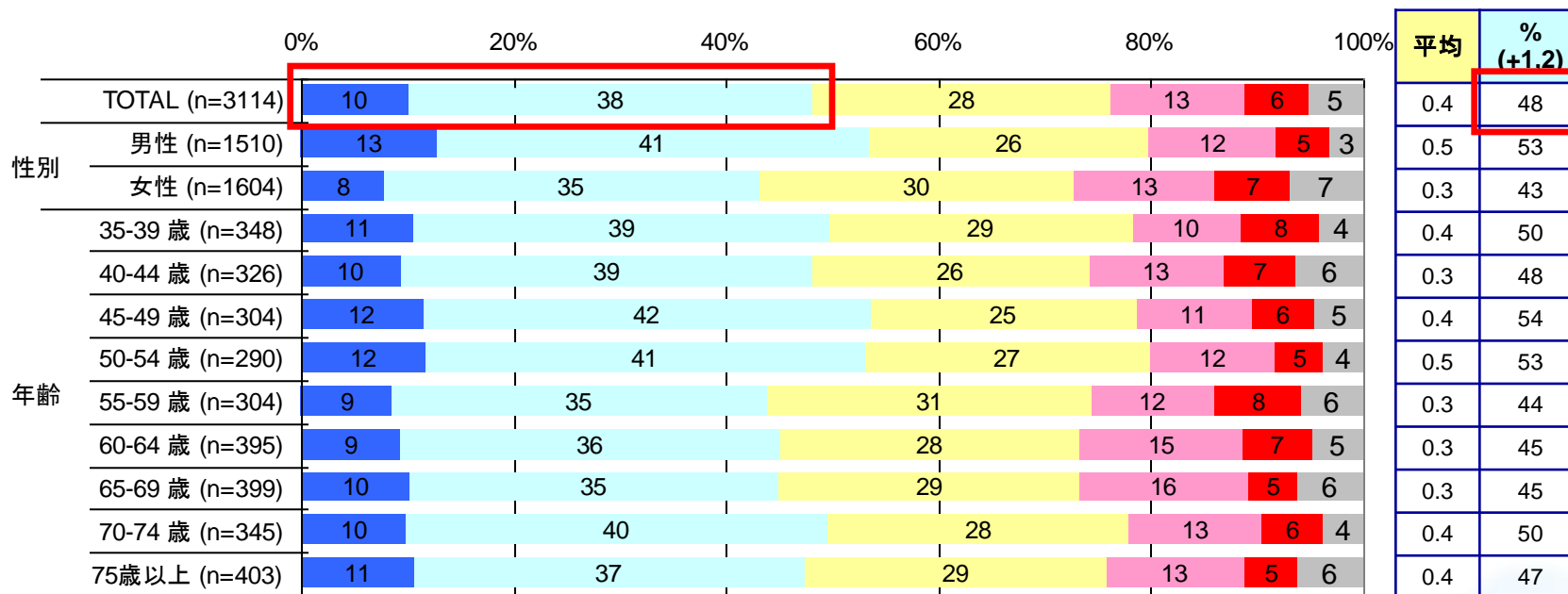


Q18. 「治験」への参加機会があったにもかかわらず、「治験」に参加しなかった理由を下記の中からいくつでもお知らせください。  
 対象 n=135 (Q17.「今までに、治験と呼ばれる試験に参加する機会がありましたか。」に対して「有り」と答えた人。)

# 治験未参加者の半数が、参加に関心・興味

- 治験を認知していない、または治験参加経験のない対象者の48%が、「より安全」、「より治療に効果的」、「より副作用が少ない」といった新しい医薬品の開発につながる可能性があるのであれば、治験への参加に関心・興味を持っている。

■ 非常に興味がある (+2) ■ やや興味がある (+1) ■ どちらでもない (0) ■ あまり興味はない (-1) ■ まったく興味はない (-2) ■ わからない



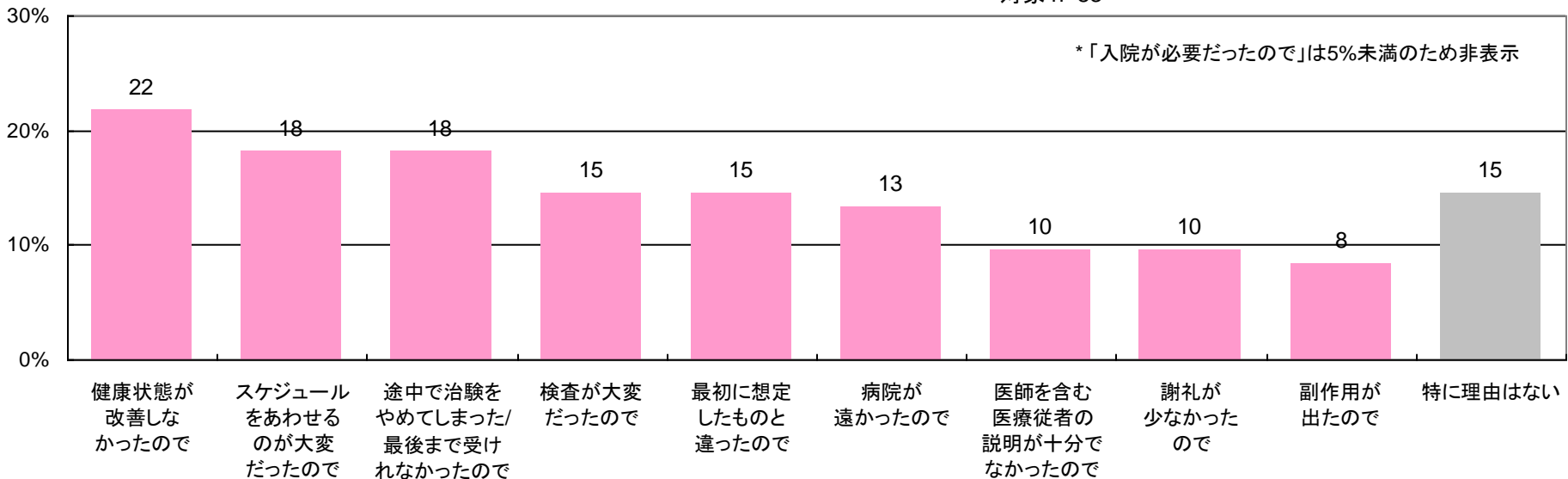
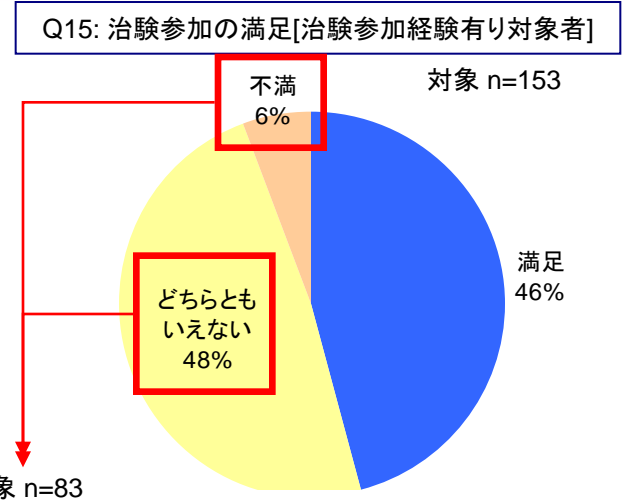
Q19. 「より安全」、「より治療に効果的」、「より副作用が少ない」といった新しい医薬品の開発につながる可能性があるれば、「治験」と呼ばれる試験に参加してみたいと思いますか。下記の中から最も近いものを1つだけお知らせください。  
[治験非認知/ 治験参加経験無しベース n=3,114]

# 参加経験者の約半数は治験に満足



P/RMA

- 治験参加経験有りと答えた対象者のうち、治験に対して「満足」とした人は46%、「不満」と回答した人は6%。
- 不満足の原因は、「健康状態が改善しなかった」、「スケジュールをあわせるのが大変だった」、「途中で治験をやめてしまった/最後まで受けられなかった」などであった。



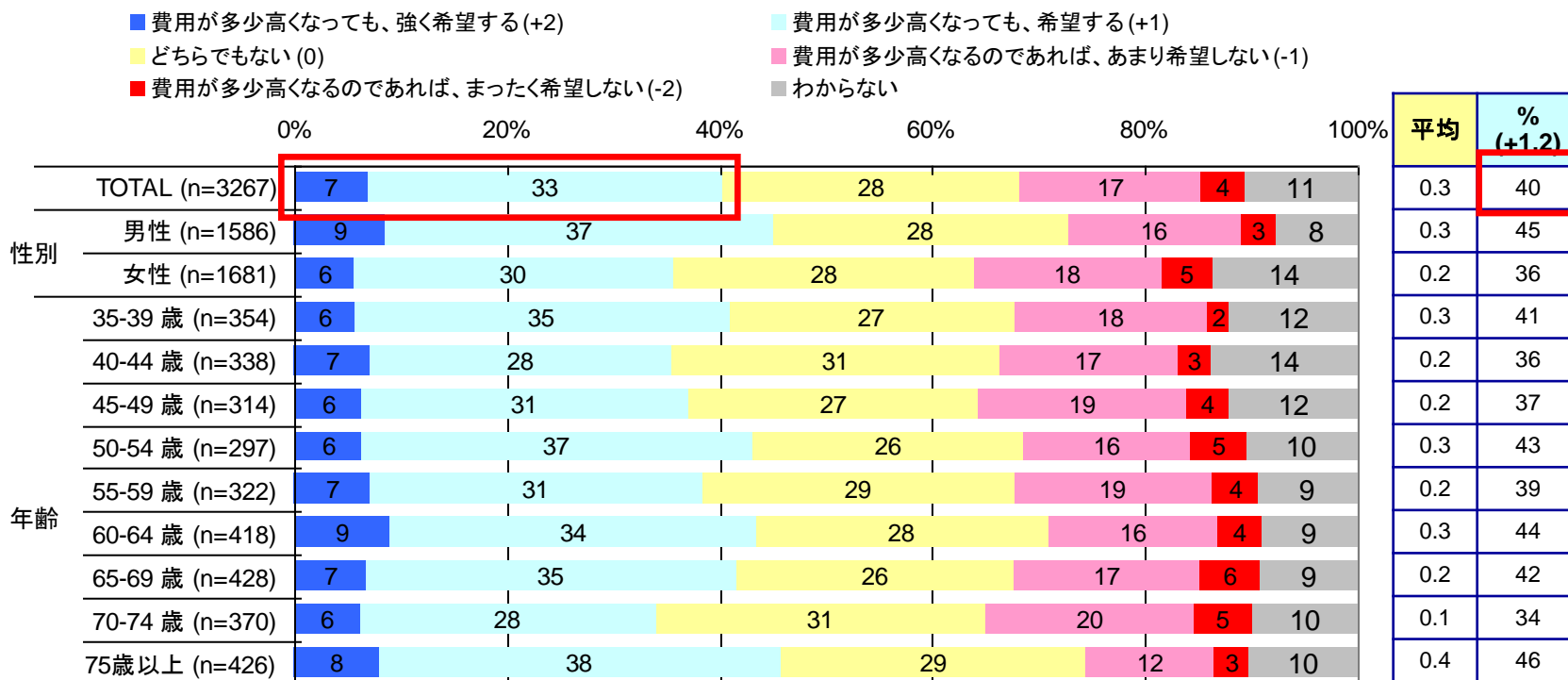
Q16. 「治験」への参加が満足いくものではなかった理由を下記の中からいくつでもお知らせください。【複数回答】  
 対象 n=83 (Q15. 「治験への参加は満足のいくものでしたか」に対して不満あるいはやや不満と答えた人。)

# 多少費用が高くても、世界最新の医薬品を使用したいと4割が回答



P/RMA

- 病気になった場合、多少費用が高くなっても、世界最新の医薬品の使用を「強く希望する」、「希望する」と答えた人が全体の40%。



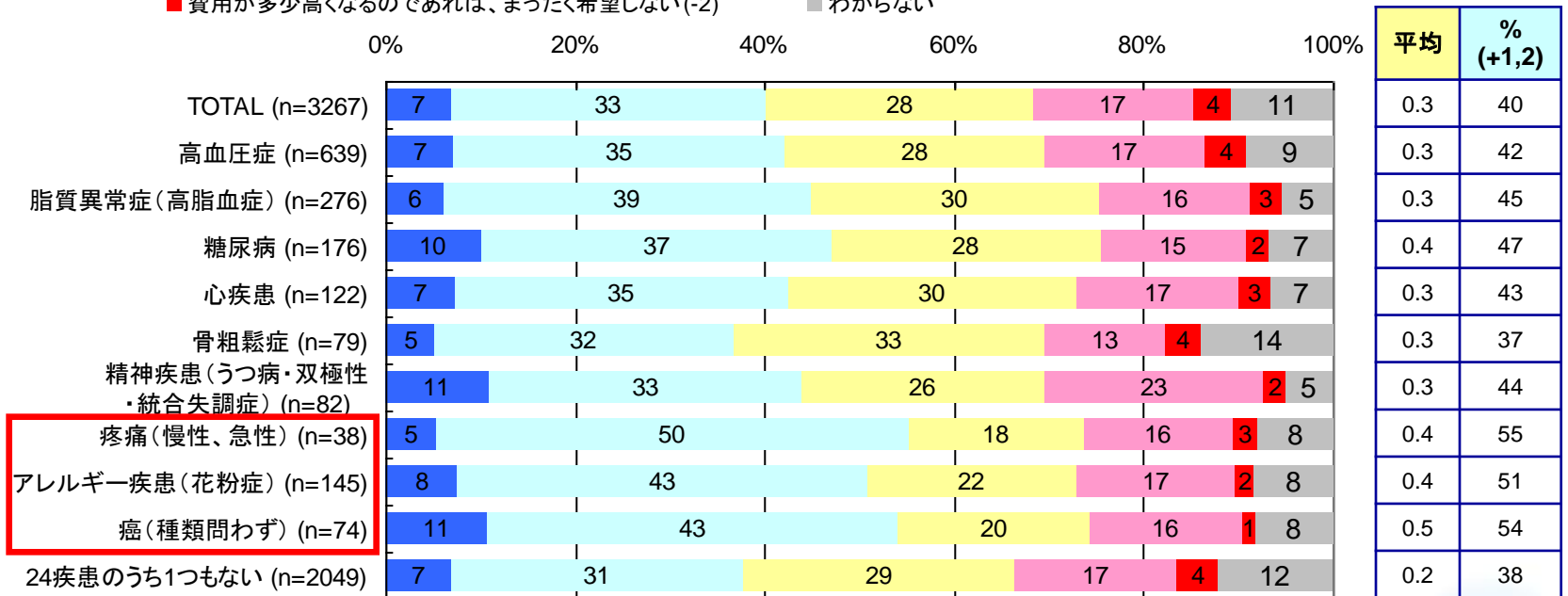
Q23. 病気になった場合、費用が多少高くなっても、あなたは世界最新の医薬品をどの程度希望しますか。下記の中から最も近いものを1つだけお知らせください。[全体 n=3,267]

# 世界最新の医薬品の使用希望： 疾患別では、がん、アレルギー、疼痛の患者が高い



- 「現在薬を使用・服用中」で、多少費用が高くなっても最新の医薬品の使用を「強く希望する」、「希望する」と答えた4割の対象者を疾患別にみると、がん、アレルギー疾患、疼痛患者の割合が高い。

- 費用が多少高くなっても、強く希望する(+2)
- 費用が多少高くなっても、希望する(+1)
- どちらでもない(0)
- 費用が多少高くなるのであれば、あまり希望しない(-1)
- 費用が多少高くなるのであれば、まったく希望しない(-2)
- わからない

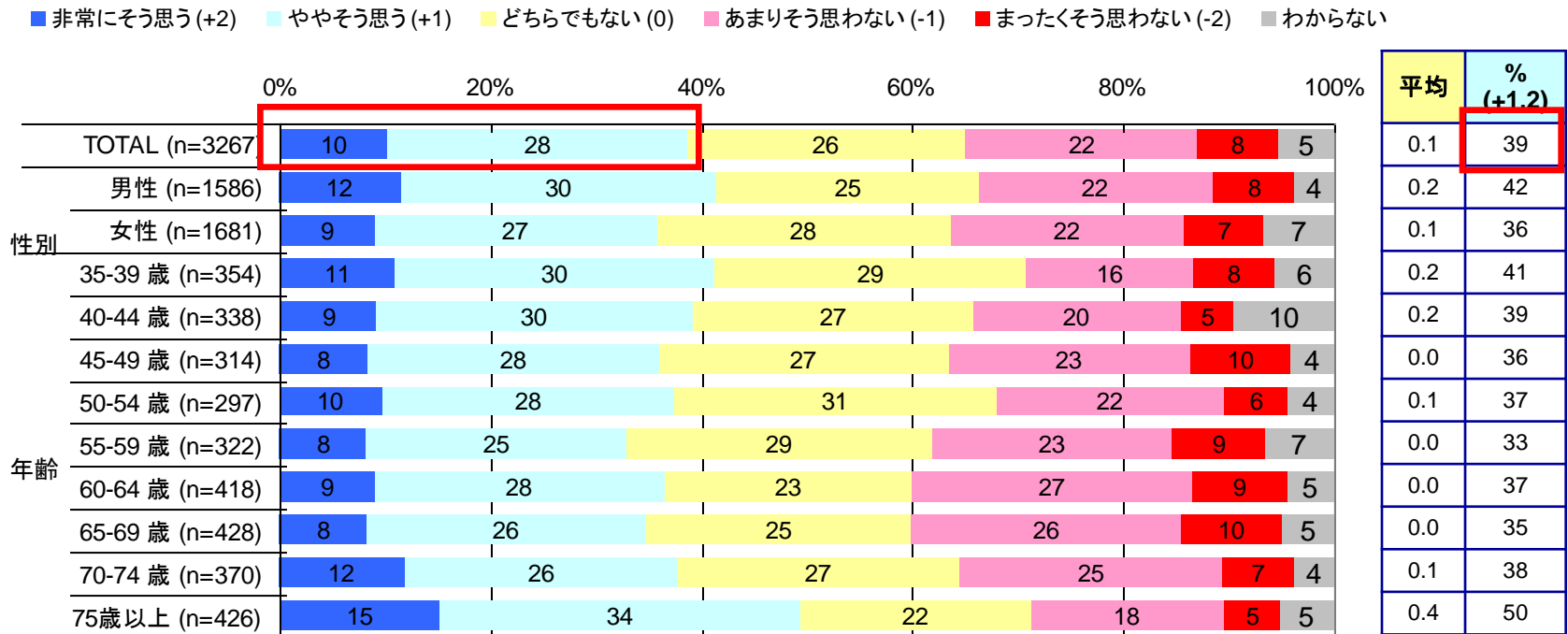


Q23. 病気になった場合、費用が多少高くなっても、あなたは世界最新の医薬品をどの程度希望しますか。下記の中から最も近いものを1つだけお知らせください。【\* 30サンプル未満の疾患は省略】

# 4割が、一人当たりの医療費を先進諸国平均レベルまで増やすべきだと回答



- 39%が、超高齢化社会に向け、一人当たりの医療費を先進諸国平均レベルまで増やすべきだと思っている。



Q22. 【現状】日本は、その国の経済力の目安となるGDP(国内総生産)の数値や65歳以上の高齢者一人当たりの割合が、ヨーロッパやアメリカなど先進諸国の平均より高いにもかかわらず、一人当たりの医療費は先進諸国の平均を下回っています。超高齢化社会に向け、一人当たりの医療費も先進諸国平均レベルまで増やすべきだと思いますか。下記の中から最も近いものを1つだけお知らせください。[全体 n=3,267]

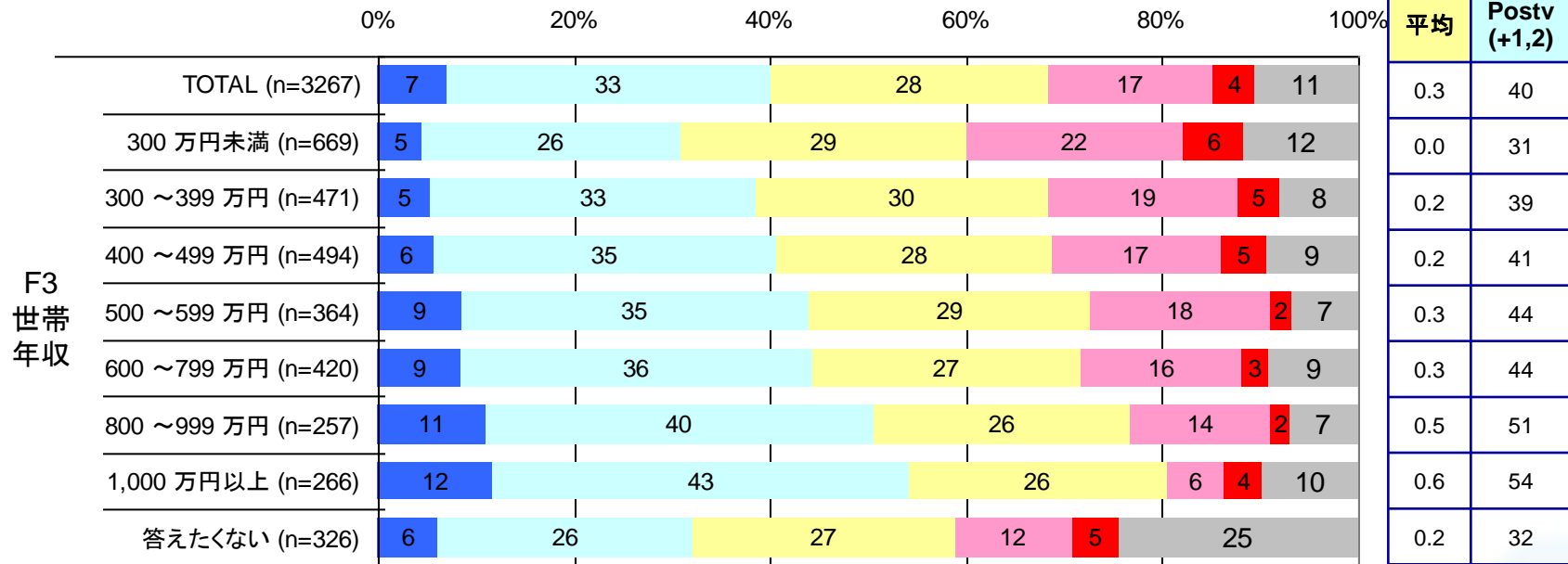
# 世界最新の医薬品に対する希望： 世帯年収が影響



P/RMA

- 「病気になった場合、費用が多少高くなっても世界最新の医薬品を希望する」割合が300万円未満では約3割であるのに対して、300万円以上になると4割近く、800万円以上では5割を超えるなど、世帯年収の影響を大きく受けていることが伺える。

- 費用が多少高くなっても、強く希望する(+2)
- 費用が多少高くなっても、希望する(+1)
- どちらでもない(0)
- 費用が多少高くなるのであれば、まったく希望しない(-1)
- 費用が多少高くなるのであれば、まったく希望しない(-2)
- わからない



Q23. 病気になった場合、費用が多少高くなっても、あなたは世界最新の医薬品をどの程度希望しますか。下記の中から最も近いものを1つだけお知らせください。[全体 n=3,267]